

二十五年以上ノ醫師ノ子弟ニ免狀付與ノ件
奉職履歷ニ依ル免狀ノ件 限地開業免狀内規

五百六十六

- 一 明治十七年一月以前開業試験ニ及第シ免狀授與ノ者
- 一 官立學校及外國ニ於テ醫學卒業セシニ依リ明治十七年三月十七日以前ニ免狀授與ノ者
- 一 奉職履歷ニ依リ免狀授與ノ者

○二十五年以上ノ醫師ノ子弟ニ免狀付與ノ件

明治十五年三月内 務省乙第十四號達

醫師開業ノ儀ニ付テハ三府ハ明治八年二月文部省ヨリ各縣ハ同九年一月當省乙第五號ヲ以テ相達置候所從來開業醫ノ子弟ニシテ其助手ト相成居醫業ヲ以テ家名相續致度輩ハ年齡當明治十五年六月滿二十五年以上ノ者ニ限リ從來開業醫ト看做不要試験開業許可ノ證ヲ與ヘ不苦候條此旨相達候事(明治十五年務省乙第二十六號ヲ以テ開業許可ノ證ヲ與フルハ當八月中期限トスル旨ヲ達ス)

○奉職履歷ニ依ル免狀ノ件

明治十六年十二月内 務省乙第四十七號達

明治十年當省乙第七十六號達以後奉職セシ者ト雖モ該達ニ比準スヘキ者ハ特別ヲ以テ志願ニ依リ直ニ醫師開業免許可致授與候條本年十二月限リ履歷書相添可爲願出此旨相達候事

○限地開業醫免狀内規

明治十七年一月内 務省訓示乾衛甲第十四號

昨十六年第三十五號布告醫術免許規則第五條ニ依リ醫師假免狀授與ノ義ハ實際醫師欠乏ノ場所ニ限リ區域ヲ定メ開業差許候義ニ付其地ノ廣狹人口戶數及他ノ開業醫師アル村落ニ至ル道路ノ險易里程等詳細取調繪圖面相添本人履歷書ヲ併セ其時時可伺出此旨訓示候也

○同上

明治十七年六月六日 衛生局ヨリ府縣へ通牒

客年太政官第三十五號布告醫師免許規則第五條假開業免許醫師之義ハ山間若クハ孤島等極メテ僻陬邊境ニシテ到底本免許醫師移住ノ目途無之地ノ如キ萬萬不得已場所ニ非サレハ詮議相成ラサル筈ニ有之其取扱手續ノ義ハ別紙ノ通當省ニ於テ内規相定有之候間御參考ノ爲メ及御回付置候條右ノ趣意ヲ以テ御取扱相成候様致度云云

- 一 十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ヲ得ントスルモノハ願書ニ開業地ノ郡村名ヲ明記シ履歷書ヲ添ヘ差出スモノトス但地方廳ニ於テ十七年乾甲第十四號訓示ノ通調書ヲ添フヘシ

一 醫師ニ乏シキ地ト認ムルハ開業醫師アル町村ニ隔絶シ患者往復ノ容易ナラサル場所ニ限ル其往復ノ便ヲ欠カサルニ於テハ其情况奈何ニ拘ハラヌ假開業ヲ許可セサルモノトス但シ孤島ノ如キハ陸地ニ遠隔スルカ又ハ舟楫ノ便困難ニシテ時時通路ヲ絶ツ等ノモノヲ以テ本條ニ準スヘシ

- 一 前條ノ願書ニハ其地ノ戶長衛生委員之ニ與書シ若シ意見アルトキハ其書面ヲ付スヘシ但本項ノ外尙郡區長ノ意見書若クハ區醫開業醫ノ保證書ヲ添ヘシムル等出願手續ニ係ル細則ヲ定ムルハ府知事縣令ノ適宜ニ任ス
- 一 前條ノ出願者アルトキハ府知事縣令ニ於テ實際醫師ニ乏シキ地ナルヤ否ヤヲ取調若シ乏シカラスト認ムルトキハ之ヲ具狀スルヲ要セス
- 一 府知事縣令ニ於テ醫師ニ乏シキ地ト認ムルトキハ願人ノ適否ニ拘ハラヌ之ヲ具狀スヘシ但シ其願人ヲ不適當ナリトスルトキハ意見書ヲ添ヘ差出スヘシ

同上

五百六十七

- 一 假開業ヲ願フモノハ曾テ開業醫師ニ付其補助等ヲナシタルモノ又ハ醫學ヲ修行シ履歴アル者ニテアラサレハ之ヲ許可セサルモノトス
- 一 假開業醫師ハ免許區域外ニ出テテ區域外ノ者ヲ診察治療スルコトヲ得ス但シ區域外ノ患者ト雖モ區域内ニ來リテ診察治療ヲ乞フモノハ此限ニアラス

○同上 明治三十一年四月八日訓令第三百十六號

從來限地開業醫認可ノ儀ハ寒村僻地等ニシテ其近傍ニ醫師居住ナキ地方ニハ許可シ來リ候處無資格ノ者ヲシテ治病ノ責ニ任スルハ危險ノ恐レモ尠ナカラサル儀ニ付絶海孤島等ニシテ全然醫師供給ノ道ナク萬止ヲ得サルノ地ヲ除クノ外是迄限地開業醫ノ設置ヲ要シタルカ如キ地方ニハ普通開業醫ニ相當ノ補助ヲ與ヘ移住セシムル等便宜ノ方法相設ケ勉メテ資格アル醫師ヲ普及セシムル様獎勵スヘシ

○醫術開業試驗規則 明治十六年十月布達第三十四號

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス但明治十二年(二月)內務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス
右布達候事

醫術開業試驗規則

- 第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ
- 第二條 內務卿ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ但試驗ヲ舉行スヘキ地方及試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ內務卿ヨリ告示スヘシ

第三條

明治二十二年內務省令第七號ヲ以テ削除

第四條

醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

- 第一 物理學 第二 化學 第三 解剖學 第四 生理學

後期試験科目

- 第一 外科學 第二 內科學 第三 藥物學 第四 眼科學

第五 產科學 第六 臨床實驗

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖及生理 第二 齒科病理及治術 第三 齒科用藥品

第四 齒科用器械 第五 實地試驗

第八條 前期試験ハ一ヶ年以上後期試験ハ更ニ一ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ添ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄

ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス(明治二十六年內務省令第九號ヲ以テ翌月下「十」ノ一字ヲ加フ)但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ會議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験委員長試験委員協議ノ上之ヲ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ(明治二十二年内務省令第七號ヲ以テ本條中試験主事者ヲ試験委員長ト改ム)但時宜ニ依リ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 (明治二十二年内務省令第七號ヲ以テ削除)

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ出願スル者ハ手数料ヲ納ムヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス(明治二十年省令第四號ヲ以テ改正)

前期試験手数料金五圓

後期試験手数料金八圓

齒科試験手数料金八圓

第十五條 (明治二十六年内務省令第四號ヲ以テ本條削除)

○醫術開業受験人心得 明治十六年十二月内務省令第二十六號告示

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受験人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ此ヲ受クルヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ申出ツヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス(明治十七年十二月内務省令第三十五號告示ヲ以テ改正)

願書式

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

名

年月日

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期)(齒科ナレハ醫術ノ上ニ齒術ノ字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク)試験相受度別紙書類相添此段奉願候也(明治十八年内務省令第二十七號)達ニ依リ衛生委員ノ項ハ消滅ス

右

氏

名印

年月日

醫術開業受験人心得

醫術開業試驗願書並藥劑師試驗願書ニ寫眞添附ノ件 醫術開業試驗
及藥劑師試驗手数料納付方 醫術開業試驗ニ關スル件

五百七十二

「内務卿」宛

戸長 氏

名印

○醫術開業試驗願書並藥劑師試驗願書ニ寫眞添附ノ件 明治二十四年十一月内務省告示第五十七號
醫術開業試驗並藥劑師試驗願書ハ自今本人之ヲ自書シ且當年若クハ其前年ニ寫取リタル寫眞一葉ヲ添
附スヘシ

○醫術開業試驗及藥劑師試驗手数料納付方 明治二十六年四月内務省令第六號
醫術開業試驗及藥劑師試驗手数料ハ自今其金額ニ相當スル登記印紙ヲ願書ニ貼付シ納付スヘシ

○醫術開業試驗ニ關スル件 明治三十一年二月内務省令第二號
醫術開業試驗後期ノ學說試驗及齒科ノ學說試驗ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス
前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得實地試
驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ試驗委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出スヘシ但試驗手数料金五圓ヲ
納ムヘシ
明治二十二年(七月)當省令第十號及三十年(四月)當省令第九號ハ廢止ス

○醫術開業並藥劑師實地試驗出願心得方 明治三十年九月内務省告示第五十七號

明治二十六年(七月)當省令第十號及第十一號ニ據リ醫術開業實地試驗並藥劑師實地試驗ヲ出願シタル
者ハ左ノ期限内ニ舉行地へ著到シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ツヘシ
明治二十七年(二月)當省令第十四號廢止ス

醫術開業試驗

東京

舉行期日ヨリ十日間

他ノ舉行地方

舉行期日ヨリ三日間

藥劑師試驗

東京及他ノ舉行地方

舉行期日ヨリ三日間

○入齒齒抜口中療治接骨等營業取締方 明治十八年三月内務省甲第七號達

入齒齒抜口中療治接骨等營業ノ者ハ明治十六年(十月)第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非
サレハ新規開業不相成候條從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當ノ取締法相立可申此
旨相達候事但既ニ取締法相設居候向ハ本文手續ヲ爲スニ及ハス

○醫師藥舖兼業解禁ノ件 明治十七年四月内務省訓示井衛甲第二百二十二號

醫術開業並藥劑師實地試驗出願心得方 醫師藥舖兼業解禁ノ件
入齒齒抜口中療治接骨等營業取締方

五百七十三

醫師處分ノ通知ヲ受ケタルトキ行狀等取調方
醫師犯罪及不正ノ所爲具申方

五百七十四

醫師藥劑師兼業ノ義ハ不相成旨從來指令及置候向有之候處自今兼業爲致不苦義ト心得ヘシ
此旨訓示候也

但藥師試驗規則施行致居候向ニ於テハ成規ノ試験ヲ遂ケ候ハ勿論ノ義ト心得ヘシ

○醫師處分ノ通知ヲ受ケタルトキ行狀等取調方 明治二十四年二月内
務省訓第九十三號

醫師其業ニ關スル犯罪處分裁判確定ノ上ハ自今各裁判所ヨリ其廳ヘ通知可有之ニ付其通知ヲ得タルト
キハ速ニ左記ノ件取調ヘ尙停禁處分ニ付意見ヲ具シ進達セラルヘク不正ノ行爲ニ付テハ明治十六年
(十二月)坤第一〇八四號訓示ニ依リ左項ニ準シ取調ヘ進達セラルヘシ

- 一 本人平素ノ行狀
- 一 近傍開業醫ノ多少(村落等ノ場合ニ限ル)
- 一 其所爲ノ故意懈怠
- 一 傳染病ニ係ルトキハ成規ノ届ヲ爲ササルモ消毒ハ法ノ如ク充分ニ施行セシヤ否及爲メニ他ニ
病毒ヲ傳播セシ事實ノ有無(若シアラハ傳染ノ系統其廣狹緩急患者死者等ノコトヲ詳記スヘ
シ)

○醫師犯罪及不正ノ所爲具申方 明治十五年九月内務省訓
示坤術第五百九十五號

今般第三十九號布告發行相成候ニ付テハ醫師タル者醫業ニ關シ犯罪有之處斷相成候節ハ大審院諸裁判
所ヨリ當省ヘ通知有之候等ニ付當省ヨリ醫業停止若クハ禁止ノ義可相達事モ有之候得共自今醫師ニシ

テ不正ノ行爲アリ其職業ニ對シ萬萬不可觸ト認メ候者有之節ハ刑法ニ觸ルルト否トニ拘ラス詳細其事
情ヲ具シ其醫師ノ住所姓名年齢履歷書等ヲ添ヘ稟申候様可致此旨及訓示候也

○同上 明治十六年十二月内務省
訓示坤術第一〇八四號

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則御布告相成候ニ付來ル十七年一月一日ヨリ客年第三十九號布告ハ
廢止相成候得共客年九月四日附坤術甲第五九五號ヲ以テ及訓示置候手續ノ義ハ總テ從前ノ通相心得稟
申可致此旨及訓示候也

○醫師藥劑師產婆廢業又ハ死亡ノトキ免狀燒棄及報告方 明治二十六年五月
内務省訓令第十號

醫師藥劑師產婆廢業死亡ノモノハ自今其廳ニ於テ免狀ヲ燒棄シ毎年十二月迄ニ届出ヲ受ケタル分左ノ
書式ニ據リ格別ニ調整シ翌年一月十五日限リ當省ヘ報告スヘシ
紛失等ニ依リ免狀返納セサルモノアルトキハ前項ノ期限ニ拘ラス事實ヲ詳記シ其都度報告スヘシ
明治何年中何何廢業死亡者報告

免狀番號	族	籍	氏	名	年	齡	死亡年月日
備考	本文第二項ノ報告ヲ爲シタルモノモ此表中ニ記入シ免狀番號欄内ニ紛失等ノ文字ヲ記 スヘシ						

同上 醫師藥劑師產婆廢業又ハ死亡ノトキ免狀燒棄及報告方

五百七十五

三十二年
臺灣總督
府令第六
十四號
以本則
中「民政
局長」ト
「臺灣總
督」ト
「臺灣總
督府」ニ
改ム

○臺灣醫業規則 明治二十九年五月臺
灣總督府令第六號

臺灣醫業規則

- 第一條 醫師ハ内務大臣ヨリ醫術開業免狀ヲ得タル者及「民政局長」ヨリ醫業免許證ヲ得タル者トス
- 第二條 内務大臣ノ醫術開業免狀ヲ有セル者開業セントスルトキハ開業ノ場所ヲ定メ該免狀ヲ添ヘ五日以内ニ地方廳ニ届出ツヘシ
- 第三條 醫業免許證ノ下附ヲ受ケントスル者ハ醫術ニ關スル履歷書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ「民政局」ニ出願スヘシ
- 第四條 醫業免許證ハ臺灣及澎湖島ヲ限リ有効トス但特ニ區域ヲ限リ下附スルコトアルヘシ
- 第五條 醫業免許證ヲ得ル者ハ下付ノ際手数料金五圓ヲ納ムヘシ
- 第六條 醫業免許證ノ書換若ハ再下附ヲ請求スル者ハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 内務大臣ノ免狀ヲ有スル者廢業スルトキハ地方廳ニ届出ヘシ
- 第八條 醫師其業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アルトキハ「民政局長」ハ其業ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第九條 地方廳ハ第八條ニ依リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ直ニ其免許證ヲ取上ケ之ヲ「民政局長」ニ送附スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業ノ旨ヲ免許證ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下附スヘシ
- 第十條 内務大臣ヨリ醫業ヲ禁止又ハ停止セラレタル者ハ開業ノ効ヲ失ヒ又ハ其期間開業ノ効ヲ失フモノトス

第十一條 醫業免許證ヲ得ス又ハ醫業免許區域外ニ於テ醫業ヲ爲シタル者ハ二十五日以下ノ輕禁錮又ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第二條ニ背キタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 知事島司ハ醫師取締細則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 此規則ハ明治二十九年七月一日ヨリ施行ス

○藥劑師試驗規則 明治二十二年三月
內務省令第三號

藥劑師試驗規則

- 第一條 藥劑師タラントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ
 - 第二條 藥劑師試驗ハ毎年二回舉行シ其舉行ノ地及期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ (明治二十七年七月內務省令第六號ヲ以テ改正)
 - 第三條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 第一 物理學 | 第二 化學 | 第三 植物學 | 第四 生藥學 |
| 第五 製藥化學 | | | |
| 實地 | | | |
| 第一 分析學 | 第二 藥品鑑定 | 第三 藥物製煉 | 第四 調劑術 |
- 第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ毎年二月八月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ之ヲ取締メ内務省ニ進達スヘシ (明治三十二年一月內務省令第二號ヲ以テ本條ヲ改ム)

藥劑師試驗受驗人心得

五百七十八

- 第五條 (明治二十七年七月內務省令第六號ヲ以テ本條削除)
- 第六條 藥劑師試驗ヲ出願スルモノハ其際手数料金五圓ヲ納ムヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス (明治二十六年四月內務省令第五號ヲ以テ改正)
- 第七條 受驗上不都合ノ所爲アル者ハ試驗委員長ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ (明治二十七年七月內務省令第六號ヲ以テ本條中主事者トアルヲ試驗委員長ト改ム)
- 第八條 (明治二十四年十一月內務省令第十九號ヲ以テ削除)
- 第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○藥劑師試驗受驗人心得 (明治二十三年二月內務省告示第七號)

藥劑師試驗受驗人心得左ノ通り相定ム

- 第一條 藥劑師試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ
- 第二條 藥劑師試驗ヲ受ケント欲スルモノハ明治二十二年內務省令第三號藥劑師試驗規則第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ
- 第三條 藥劑師試驗願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試驗舉行ノ期日四日前ニ受驗地ニ到着シ宿所氏名ヲ其ノ地方廳ニ届出ツヘシ

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍 氏名

生年月

右

名印

市長(三府ハ區長)若クハ町村長(市町村制ヲ實施セサル地方ハ戶長)

氏名印

內務大臣宛

○藥劑師實地試驗ニ關スル件 (明治三十一年二月內務省令第三號)

藥劑師試驗ノ學說試驗ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス
 前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得
 實地試驗ヲ受ケントスル者ハ其試驗願書ニ試驗委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ差出スヘシ但試驗手数料金三圓ヲ納ムヘシ
 明治二十六年(七月)當省令第十一號ハ廢止ス

藥劑師廢業死亡届出方 藥劑師廢業死亡届出ノトキ報告方
臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則

五百八十

○藥劑師廢業死亡届出方 明治二十四年四月
內務省令第一號

明治二十二年(三月)法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條届書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○藥劑師廢業死亡届出ノトキ報告方 明治二十二年八月內
務省訓令第三十四號

藥品營業並藥品取扱規則第八條ニ據リ届出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月族籍氏名並ニ免狀番號ヲ記載シ一ヶ月分取纏メ翌月十日限當省へ報告スヘシ

○臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則 明治二十九年六月臺
灣總督府令第十號

臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則左ノ通相定ム

臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則

第一條 藥劑師トハ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二條 藥劑師ハ內務大臣ヨリ得タル藥劑師免狀ヲ有スル者及臺灣總督ヨリ藥劑師免許證ヲ得タル者

トス (三十二年臺灣總督府令第
六十五號ヲ以テ本項改正)

藥劑師開業セントスルトキハ開業ノ場所ヲ定メ該免狀ヲ添へ地方廳ニ届出ツヘシ

第三條 藥劑師免許證ノ下付ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添へ地方廳ヲ經テ臺灣總督府ニ出願スヘシ

藥劑師免許證ヲ得タル者ハ下付ノ際手数料金三圓ヲ納ムヘシ其書換若ハ再下付ヲ請求スル者ハ手数料

料金六十錢ヲ納ムヘシ (三十二年臺灣總督府令第六十五號ヲ以テ本

條ヲ加ヘ第三條ヲ四條ニ以下順次繰下ク)

第四條 藥種商及製藥者開業セントスルトキハ地方廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第五條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニアラサレハ販賣

若ハ授受スルコトヲ得ス

日本藥局方ニ記載セサル外國藥局方ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニアラサレハ

販賣若ハ授受スルコトヲ得ス

第六條 官許ヲ得シテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ此規則第四條ニ違犯シタル者ハ二十五日以内ノ

輕禁錮又ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第七條 知事及島司ハ此規則施行細則ヲ設クルコトヲ得

第八條 此規則ハ明治二十九年七月一日ヨリ施行ス

○獸醫免許規則 明治二十三年八月
法律第七十六號

朕獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸醫免許規則

五百八十一

獸醫免許規則

第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ルモノ左ノ如シ

一 獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一 官立府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ其免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第八條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第九條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ヘ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七條布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫免許試験規則

明治二十三年九月農商務省令第十一號

明治二十三年八月法律第七十六號第十三條ニ據リ獸醫免許試験規則左ノ通之ヲ定ム

獸醫免許試験規則

第一條 試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 家畜解剖學
- 一 同 生理學
- 一 同 藥物學
- 一 同 內科學及其ノ實地
- 一 同 外科學及其ノ實地
- 第二條 試驗法ハ筆記及實地ノ二様トシ實地試驗ハ筆記試驗ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試驗ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ
- 第三條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ
- 第四條 農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシム
- 第五條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第六條 受験者ハ試驗期日三日前受験地ノ宿所ヲ其地方廳ニ届出ツヘシ
- 第七條 試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ
- 第八條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス
- 附 則
- 第九條 第十回獸醫免許試驗ニ限リ家畜ノ解剖學、生理學、藥物學、內科學、外科學ニ就キ筆記試驗ヲ行フ

○獸醫假免狀手續 明治二十三年九月農商務省訓令第四十四號

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ但明治十九年(十二月)當省訓令第二十一號假開業獸醫免許手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

第一條 獸醫假免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

- 一 營業區域ノ廣袤及地勢ノ險夷
- 一 區域内牛馬頭數
- 一 營業年限

第二條 獸醫假免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免許ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖モ假免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

第三條 獸醫假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○獸醫蹄鐵工、各免許規則ニ依リ學則認可請求方 明治二十三年十一月農商務省令第十八號

本年(八月)法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年(四月)法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則認可ヲ請ハント欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ教員ノ族籍氏名年齢及履歷ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校長又ハ校長名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校長又ハ校長ハ其ノ學校ノ卒業試驗終了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業者ノ族籍氏名年齢及履歷學期ノ試驗成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

獸醫蹄鐵工、各免許規則ニ依リ學則認可請求方

一 教員ノ員數及資格

- 一 獸醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
- 一 蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上學力ヲ有スル者

二 學科目

- 一 獸醫學校學科
 - 動物學及理化學
 - 病理學通論
 - 解剖學及其ノ實習
 - 病體解剖學及其ノ實習
 - 家畜飼養法蕃殖法及衛生論
 - 藥物學
 - 內科學
 - 外科學
- 蹄鐵學校學科
 - 撰鐵、鍛鍊、造蹄鐵及造鐵釘法實習
 - 蹄鐵學及其ノ實習
 - 蹄ノ解剖、生理及病理論
 - 家畜衛生論
- 產科學
 - 動物論及警察法
 - 生理學
 - 蹄鐵及其ノ實習
 - 治療法實習

三 修學年限

- 一 獸醫學校滿三年以上
- 一 蹄鐵學校滿一年以上

○獸醫開業免狀同假開業免狀下附願及開業試驗願書ハ副本ヲ要セス 明治二十二年

十一月農商務省訓令第三十九號

獸醫開業免狀同假開業免狀下附願書及開業試驗願書ハ自今副本差出スニ及ハス

○小笠原島伊豆七島獸醫假免許出願細則 明治二十三年十二月東京府令第百二十四號

小笠原島伊豆七島獸醫蹄鐵工假免許出願ニ係ル細則左ノ通相定ム

獸醫蹄鐵工假免許出願細則

第一條 獸醫蹄鐵工ノ假免狀ヲ得ント欲スル者ハ左ノ書式ニ倣ヒ願書ニ履歷書ヲ添ヘ島廳役所ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

獸醫蹄鐵工假免狀下附願

東京府何島何村字何何番地(寄留
ナレハ本籍ヲ記入スヘシ)
族 籍

獸醫開業免狀同假開業免狀下附願及開業試驗願書ハ副本ヲ要セス 五百八十七
小笠原島伊豆七島獸醫假免許出願細則

私儀何島何村字何番地ニ於テ獸醫(蹄鐵工)開業仕度候間獸醫(蹄鐵工)假免狀御下附被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

氏

名印

農商務大臣宛

第二條 獸醫ノ假免狀ヲ得タル者其免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル者新ニ開業スルトキハ年限中ト雖トモ假免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第三條 獸醫蹄鐵工ノ假免狀下付ヲ出願スルモノアルトキハ島司地役人ハ左ノ事項ヲ取調具狀スヘシ

- 一 營業區域
- 一 區域内ノ廣袤及地勢
- 一 區域内牛馬ノ頭數

○臺灣獸醫免許規則 明治三十三年二月 臺灣總督令第八號

臺灣獸醫免許規則左ノ通相定ム

臺灣獸醫免許規則

第一條 獸醫ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ得タル者及臺灣總督ヨリ獸醫免許證ヲ得タル者トス

第二條 農商務大臣ノ獸醫免狀ヲ有スル者開業セントスルトキハ開業ノ場所ヲ定メ該免狀寫ヲ添ヘ地

方應ニ届出ツヘシ (三十三年臺灣總督府令第五十四號ヲ以テ本條中改正)

第三條 獸醫免許證ノ下付ヲ受ケントスル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ願出スヘシ

第四條 獸醫免許證ハ檢定委員ノ檢定ニ依リ臺灣總督之ヲ下付ス臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

第五條 獸醫免許證ヲ毀損亡失シ若ハ氏名木籍ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免許證ノ再下付又ハ書換ヲ願出スヘシ

第六條 獸醫免許證ノ下付ヲ受ケル者又ハ其再下付若ハ書換ヲ請フ者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 獸醫免許證ノ下付 金三圓
- 二 獸醫免許證ノ再下付又ハ書換 金一圓

第七條 農商務大臣ノ獸醫免狀ヲ有スル者免狀記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ届出ツヘシ

第八條 獸醫開業シタルトキ又ハ住所ヲ轉シタルトキハ其都度地方廳ニ届出ツヘシ

第九條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ遺族ヨリ遺族ナキトキハ寄留所主宰者ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ獸醫免許證ヲ返納スヘシ但獸醫免狀ヲ有スル者ニ在テハ其旨届出ツヘシ

第十條 獸醫其業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アルトキハ臺灣總督ハ其業務ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ

獸醫免許證ヲ有スル者禁止ノ處分ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ獸醫免許證ヲ返納スヘシ其停止處分ニ係ルモノハ其期間ヲ免許證ニ裏書シ之ヲ下付スヘシ

- 第十一條 農商務大臣ヨリ獸醫業ヲ停止セラレタル者ハ其期間業務ヲ停止セラレタルモノトス
- 第十二條 獸醫免許證ヲ受ケス又ハ第二條ノ届出ヲ爲サスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年臺灣總督府令第五十四號ヲ以テ本條中改正)
- 第十三條 獸醫ノ業務停止中其業ヲ爲シタル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 獸醫正當ノ理由ナクシテ其業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十五條 第九條及第十條第二項ニ依リ獸醫免許證ヲ返納セザル者罰前項ニ同シ
- 第十六條 此規則ハ本島人ニシテ從來獸畜ノ治療ヲ業トスル者及副業ヲ營ム者ニ適用セス

附則

○蹄鐵工免許規則 明治二十三年四月 法律第三十一號

朕蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 蹄鐵工免許規則
- 第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業トナス者ヲ謂フ
- 第二條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 蹄鐵工免許試驗ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

證書ヲ有スル者

- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ハ其免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十一條 蹄鐵工免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條 此ノ規則施行以前免狀ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼ネント欲スルモノハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

○蹄鐵工假免許取扱手續明治二十三年七月農商務省訓令第三十八號

明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免許ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

- 蹄鐵工假免許取扱手續
- 第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スルモノアルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ
- 一 區域、廣袤、地勢及馬匹頭數
 - 一 營業年限
- 第二條 假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○蹄鐵工免許試驗規則明治二十三年七月農商務省令第六號

蹄鐵工免許試驗規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

蹄鐵工免許試驗規則

- 第一條 蹄鐵工免許試驗規則ハ蹄鐵ノ學術ニ就キ筆記口述及實地ヲ以テ之ヲ行フ
- 第二條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ
- 第三條 農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシム
- 第四條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験ノ地名ヲ願書ニ記載シ一月若クハ七月中其住居ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第五條 受験者ハ試驗期日三日前受験地ノ宿處ヲ其地方廳ニ届出スヘシ
- 第六條 試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ
- 第七條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

○鍼灸術營業者取締方明治十八年三月内務省達甲第十號

鍼灸術營業者ノ儀ハ從來開業之者並ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ルルハ差許不苦取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○產婆規則 明治三十二年七月勅令第三百四十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ產婆規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

產婆規則

- 第一條 產婆試驗ニ合格シ年齡滿二十歲以上ノ女子ニシテ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ非サレハ產婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第二條 產婆試驗ハ地方長官之ヲ舉行ス
- 第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ產婆試驗ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス
- 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ產婆試驗合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ
- 產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ
- 產婆名簿ノ登錄事項ハ內務大臣之ヲ定ム
- 第五條 產婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ產婆名簿ノ登錄ヲ願出ツヘシ
- 前項ノ登錄換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 產婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ
- 產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ
- 第七條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

- 第八條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用非藥品ヲ投與シ又ハ之ヲ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り瀉腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 產婆ハ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス
- 第十條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ
- 第十一條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
- 第十二條 地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得
- 第十三條 產婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得
- 第十四條 產婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癱瘓ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
- 第十五條 產婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正並產婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ
- 第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケスシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者

- 二 產婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 三 產婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 四 第三條ニ關シ虛偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
- 五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第十八條 本令施行以前內務省又ハ地方廳ヨリ產婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ產婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ內出願者ノ履歷ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ產婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

第二十條 前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ產婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ產婆名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

○產婆試驗規則 明治三十二年九月 內務省第四十七號

產婆試驗規則左ノ通定ム

產婆試驗規則

第一條 產婆試驗願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告示ス

學說

- 第一 正規妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第二 正規產褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法
- 第三 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第四 妊婦產褥褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及產婆心得

實地

- 第一 實地試驗若ハ模型試驗
- 第三條 學說試驗ニ合格シタル者ニ非レハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 學說試驗ニ合格シ實地試驗ニ落第シタル者又ハ實地試驗ヲ受ケサル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得
- 第五條 產婆試驗ヲ受ケントスル者ハ產婆學校產婆養成所等ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ產婆若ハ醫師二名ノ證明アル修業履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出スヘシ但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ學說試驗合格ノ證明書ヲ添ヘ願出スヘシ
- 地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其ノ願書ヲ受理シ許可セザルトキハ之ヲ却下ス
- 第六條 產婆試驗ヲ願出ル者ハ收入印紙ヲ以テ試験手数料金壹圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ之ヲ還付セス
- 第四條ニ依リ實地試験ノミヲ願出ル者ト雖モ本條ノ手数料ヲ納付スヘシ
- 第七條 地方長官ハ學說試驗及實地試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付シ學說試驗ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス
- 第八條 地方長官ハ受験人心得其ノ他試驗場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試驗場ニ揭示スヘシ

當該官吏ハ受驗人心得其ノ他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

○產婆名簿登錄規則 明治三十二年九月內 務省令第四十八號

產婆名簿登錄規則左ノ通定ム

產婆名簿登錄規則

- 第一條 產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ
 - 一 登錄番號、登錄年月日
 - 二 族籍(外人ナルト)、氏名、年齡、住所(產婆規則第十八條ニ依リ登錄スルモノハ其ノ旨ヲ記載ス)
 - 三 產婆試驗ニ合格シタル地方廳名、其ノ年月日
 - 四 開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス)
 - 五 業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪(其ノ年月日事由)
 - 六 產婆業ノ禁止、停止、解除(其ノ年月日事由)
 - 七 名簿取消ノ年月日、事由
- 第二條 產婆名簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ
- 第三條 產婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其ノ住所地方廳ニ願出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受クヘシ
- 第四條 產婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ產婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其ノ登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ本人ノ願出ニ依リ直ニ產婆名簿ニ登錄ヲ爲スヘシ

- 但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟テ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登錄ヲ爲スヘシ
- 第五條 產婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ
- 第六條 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者謄本手数料金五十錢ヲ納付スルトキハ登錄ノ謄本ヲ受クルコトヲ得
- 謄本手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ
- (別記様式)略之

○賣藥規則 明治十年一月 第七號布告

沿革畧記 明治三年十二月賣藥取締ノ事務ヲ大學東校ノ所轄ト爲シ且從來賣藥ノ內有名無實ニシテ猥リニ勸許御免等ノ文字ヲ用フルヲ禁シ神佛ノ名ヲ假リ或ハ秘傳秘法ト唱ヘ小民ヲ欺キ利ヲ射ルノ弊害ヲ除キ爾後有益ノ藥法ヲ施爲シテ之レカ方法檢査規則手續等ヲ開申セシム

○同年十二月賣藥取締規則ヲ頒布ス

○五年七月第二百二號ヲ以テ前令廢止ノ一ヲ布告ス

○六年十二月第四百二十九號布告ヲ以テ賣藥取締更ニ文部省ノ管理ト爲シ藥味分量及用法等取調製劑ヲ添ヘ同省ノ檢査ヲ受ケシム

○八年六月第一百十二號布告ヲ以テ衛生ノ事務ヲ內務省ニ屬セシム

○十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

- 第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スルモノヲ云フ
(三十二年法律第十
四號ヲ以テ改正)
- 第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許
鑑札ヲ受クヘシ
(十一年第二十七號布告ヲ以テ其管轄廳
ノ下ヲ經由シテ內務省ノハ字ヲ刪ル)
但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製シ又ハニケ所以上ニ於テ外國賣藥ヲ輸入スル時ハ其
簡所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ
(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加シ三十二年法
律第十四號ヲ以テ調製ノ下ニシ以下ノハ字ヲ加フ)
- 第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモ
ノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サハルヘシ
(十一年第二十七號布告ヲ以テ內務省ヲ管
轄廳ニ改メ毒藥ノ下ニ劇藥ノ二字ヲ加フ)
- 第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札
ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法服量能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキ其賣藥ヲ
輸入販賣セント欲スルモノ亦前項ニ同シ
(三十二年法律第十四
號ヲ以テ本項追加)
- 第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持
ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
(十年第八
告十一年第二十七號布
告ヲ以テ改正削除ス)
- 第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共ニ必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ
- 第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルハ

十九年勅令第二十號
賣藥規則
施行期
限ヲ免

- 其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ
- 第八條 「營業鑑札請賣鑑札行商鑑札」其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過
キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
- 第九條 「第八條ニ記シタル期限中」第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ
一期ノ初月トナスヘシ
- 第十條 「免許期限內ト雖トモ」其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製
藥ヲ粗惡ニシ又ハ粗惡ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ
禁止スルコトアルヘシ
(十一年第二十七號布告ヲ以テ有害ト改メ三十二年
法律第十四號ヲ以テ粗惡ニノ下ニ「シ以下十八字」ヲ加フ)
- 第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス
- 第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之
ヲ願受クヘシ
- 第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フ
ヘシ
- 第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限中」其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ
鑑札名前書換ヲ請フヘシ
(十年第八十九號
布告ヲ以テ改正)
- 第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札
ヲ返納スヘシ

第二章

- 第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ
(十四年第六號布告ヲ以テ賣藥營業者ノ
賣藥行商鑑札
料ノ二項刪除)

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ

(十五年)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料

ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前

ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

(十一年第二十七號布告ヲ以テ有)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者「又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者」ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ「又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者」及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スルハ者其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑

一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (三十三年法律第十四號ヲ以テ本條中改正)

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (十四年第二十六號布告ヲ以テ營業スル者)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ偽造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (三十三年法律第十四號ヲ以テ本條中改正)

第二十六條 以上ノ犯則ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糾ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

賣藥規則罰則施行日限

明治十年二月十六號布告

本年(二月)第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事但諸鑑札授受稅納其他手續ノ儀ハ追テ內務省ヨリ可相違事

賣藥取扱手續

明治十一年十一月內務省乙第七十號達

本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左ノ手續並雜形ニ照準シ取扱可申此旨相違候事

賣藥取扱手續

- 一 鑑札料紙ハ別紙雜形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎半年期分宛二月七月兩度ニ受取方當省ヘ申立ツヘシ
- 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等雜形ノ通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 家畜牛馬等ニ用フル賣藥鑑札ハ赤輪廊之分ヲ用フヘシ
- 一 免許期間内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ
- 一 賣藥廢業鑑札是迄當省ヘ返納致來候處自今其儀ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ
- 一 (明治十四年内務省乙第四十三號達ヲ以テ本項削除)
(雜形ハ之ヲ略ス)

○賣藥取扱手續書及書式

明治十年三月内務省乙第三十二號達

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雜形ニ照準取扱可申此旨相達候事

- 一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相達候迄免許發賣共當分書換爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ
- 一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

- 一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス
- 一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交付取計フヘシ
- 一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以テ本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ
- 一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ
堅三尺

許免	賣藥	請賣業
----	----	-----

寸法同上

許免	賣藥	請賣業
----	----	-----

- 一 税金並ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添フルノミニシテ勘定書ハ一ケ年取束ネ毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省主稅局ヘ進達スヘシ但シ會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局ヘ進達スヘシ
- 一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雜形ノ通り之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一鑑札ニ記載スヘシ但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラヌ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

賣藥取扱手續書中削除改正ニ付取扱方

六百六

- 一 行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ
 - 一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳難形
- 明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅並諸鑑札料仕上勘定帳
賣藥營業類書式
- 明治八年當省乙第九十八號違難形ニ照準スヘシ
(書式)略之

○賣藥取扱手續書中削除改正ニ付取扱方

明治十四年四月内務省乙第二十五號達

本年(四月)太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年(三月)當省乙第三十二號違賣藥取扱手續中請賣鑑札料及行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云云ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

- 一 賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルトキハ本年府縣會ニ於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ
- 一 請賣鑑札料紙ハ自今大藏省賦配不致候條各管轄廳ニ於テ從前難形ノ通製造スヘシ但大藏省ヨリ下附セン鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省ヘ返納スヘシ
- 一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之等ニ候共成ハ營業者ノ藥方分量ヲ偽リ調製候向モ有之候ハハ改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルモノニ付速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候様取

計フヘシ

○藥品營業並藥品取扱規則

明治二十二年三月法律第十號

沿革略記 明治七年九月文部省ヨリ毒藥取扱方法ヲ東京京都大阪ノ三府ニ達ス○同年十二月藥品ノ賣買取締方法ヲ三府ニ達ス○十年二月第二十號布告ヲ以テ毒藥劇藥取扱規則ヲ制定ス○十三年一月第一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥品取扱規則ヲ制定ス○二十二年三月法律第十號ヲ以テ藥品營業並藥品取扱規則ヲ定メ明治二十三年三月一月ヨリ施行ス

股藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 藥劑師

- 第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ
- 第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル
- 第三條 藥劑師免狀ヲ得シトスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ
- 第四條 (二十九年法律第二十號) 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 藥劑師免狀ヲ毀損シ失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

藥品營業並藥品取扱規則

六百七

二十二年
內務省令
第三號
以テ藥劑
師試驗規
則ヲ定ム

第七條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)

第八條 藥劑師應業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設タルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ關乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受ケヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受ケヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

藥品營業並藥品取扱規則

二十五年
內務省令
第二號
以毒藥
劇藥ノ品
目ヲ定ム

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證書ヲ携帶スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第四十條 第十一條第十四條第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥師開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 「阿片賣買ニ關スル事項」明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科及高等「中」學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齢滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

外國ノ大學藥學部若ハ藥學校ニ於テ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ藥劑師免狀ヲ得タル者ニシテ年齢滿二十年以上ノ者ハ其ノ卒業證書若クハ開業證書ヲ以テ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

三十年
法律第二十
號ヲ以テ
第七號ヲ
第二十號
第一號ヲ
廢止ス

本項
追加
第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○毒藥劇藥ノ品目 明治二十五年三月 內務省令第二號

明治二十二年(三月)法律第十號藥品營業並ニ藥品取扱規則第三十五條ニ依リ明治二十二年(三月)內務省令第五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

毒藥

- 亞砒酸(白砒石、礬石、アルセニツク)
- 硫酸亞錳羅比涅
- 昇汞(過格魯兒汞、猛汞、生汞)
- 黃色酸化汞(黃降汞)
- 亞砒酸加倍謨液(法列兒水)
- 硫酸莫兒比涅
- 磷
- 撒里矢爾酸比蘇斯知偲密涅(撒里矢爾酸越攝利涅)
- 硝酸斯篤利幾尼涅
- 砒素、亞砒酸鹽類、砒酸及其鹽類
- 鹽酸亞刺莫兒比涅
- 加刺拔兒豆越幾斯
- 赤色沃度汞(過沃度汞)
- 赤色酸化汞(赤降汞)
- 鹽酸莫兒比涅
- 巴豆油
- 鹽酸必魯加兒必涅
- 勃拉篤利涅
- 青酸、稀青酸

- アコニチ子及其鹽類
- 硫化砒素(雄黃、雞冠石、雌黃、石黃)
- ブルン子及其鹽類
- コニ子及其鹽類
- 實麥答林
- 硝酸亞酸化汞
- 菲沃斯矢叟涅及其鹽類
- 藏化加倍謨(青酸加里)
- 莫兒比涅鹽類
- 比蘇斯知偲密涅(越攝利涅)鹽類
- 斯篤利幾尼涅鹽類
- 劇藥
- 石炭酸
- 格羅謨酸
- 粗製鹽酸
- 發烟硝酸
- 粗製硫酸
- 安知歇貌林(亞設篤亞尼里度)
- 杏仁水、苦扁桃水、老利兒結兒斯水、バタチ水
- 結晶硝酸銀
- 沃度砒素
- 亞錳羅比涅鹽類
- 羯答利陳及羯答利陳酸鹽類
- クラヒー(矢毒、ウラ)
- ホムアトロピ子及其鹽類
- 撒里矢爾酸汞
- 菲沃斯矢亞密涅及其鹽類
- 沃度砒汞液(度納般液)
- ニコチ子
- 必魯加兒必涅鹽類
- ニトログリスリン(明治二十九年二月內務省令第一號ニテ本目追加)
- 粗製石炭酸
- 鹽酸
- 硝酸
- 硫酸
- 亞硝酸亞密爾
- 安知必林
- 硝酸銀加硝石

熔硝製酸銀
 貌羅謨樟腦
 漆酸攝留謨
 嘔囉仿謨
 古埤乙涅
 發泡古魯胃謨
 銅礬(神效石)
 古魯聖篤越幾斯
 阿片越幾斯
 莫若越幾斯、別刺敦那越幾斯
 實麥答里斯葉
 印度大麻草
 莫若草、別刺敦那草
 黃色沃度汞(亞沃度汞)
 沃度仿謨
 苛性加里(腐蝕剝篤亞斯)
 沃度加留謨
 刺苦舌葛留謨
 佩答百兒加液
 荷性那篤倫(腐蝕曹達)

貌羅謨(臭素)
 羯答利斯(豆斑貓)、莞菁
 抱水格魯拉爾
 鹽酸古加乙涅
 珈琲涅
 硫酸銅(膽礬)
 印度大麻越幾斯
 菲沃斯越幾斯
 麥角越幾斯
 番木鱉越幾斯
 古魯聖篤實
 菲沃斯草
 甘汞(亞格魯兒汞)、輕粉
 白降汞
 沃度
 格魯兒酸加留謨(鹽素酸加留謨)、
 結麗阿曹篤
 莫若擦劑、別刺敦那擦劑
 鉛錯(次鉛酸鉛液)
 揮發芥子油

阿片
 錯酸鉛(鉛糖)
 吐根
 莫若根、別刺敦那根
 剝度比爾謨脂(剝度比爾林)
 麥角
 加刺拔兒豆
 吐酒石
 知母爾
 古爾矢屈謨丁幾
 實麥答里斯丁幾
 吐根丁幾
 阿片丁幾
 番木鱉丁幾
 吐根酒
 芳香阿片酒(含電華謨阿芙蓉液)
 格魯兒亞鉛
 以上日本藥局方第三表ニ掲載セルモノ
 硝酸(汞)
 粗製硝酸

古魯聖篤菲沃斯丸
 陀湧兒散(阿片吐根散)
 藥刺巴根
 藥刺巴脂
 珊篤寧
 古爾矢屈謨子
 番木鱉子
 金硫黃(五硫化安知母紐謨)
 羯答利斯丁幾、莞菁丁幾
 古魯聖篤丁幾
 沃度丁幾
 魯別里亞丁幾
 阿片安息香丁幾(阿片樟腦丁幾)
 古爾矢屈謨酒
 莫若丁幾、別刺敦那丁幾
 吐酒石酒
 琉酸亞鉛(皓礬)
 格羅謨酸鹽類
 漆酸

- ピトリシ酸及其鹽類
- 強安母尼亞水
- 格魯兒拔留誤、硝酸拔留誤其他拔留誤鹽類
- 咖啡涅鹽類
- 青、山綠、銅青、堯綠青
- 曼陀華葉、子及其製劑
- グアヤコール
- 古紐誤草及製劑
- 硫酸汞(硫酸酸化汞)
- 揮發苦扁桃油
- アコニット根(雙慈菊、烏頭、附子ノ類)及其製劑
- 藜蘆根及其製劑
- サバルチルラチ
- 酸化安母紐誤
- 酢酸亞鉛、炭酸亞鉛、緋草酸亞鉛
- アガリチン及其鹽類(上同)
- フオムアルデヒド液(上同)
- フエナセチン(上同)
- 發烟硫酸
- 攝留鹽類
- コロロゲン
- 硫酸銅安母紐誤(銅礪礬)、醋酸銅、次醋酸銅、(綠)
- サビノ葉及製劑
- 糖質(日本産大茴香)
- 藤黃(辨天唯黃)
- 汞灰散(銀灰散)
- 沃度礬
- サビナ油
- 巴豆
- ストロファンツス子其製劑
- フェロース次亞磷酸鹽舍利別
- 靛羅誤水素酸(明治二十九年二月内務省令第一號ニテ本目追加)
- 古塚乙涅鹽類(上同)
- バラアルヒド(上同)
- 商陸越幾斯及其他ノ製劑(上同)

スルフオナール(上同)
トリオナール(上同)
加)

答爾林鹽類(上同)
コツホ氏ツメルクリン(明治三十年十月内務省令第二十九號ヲ以テ本目追加)
コツホ氏新ツメルクリン(上同)

○藥品其他検査手数料(明治十七年十月内務省)

當省衛生局(東京大阪横濱)試験所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ徴收候條此旨告示候也

検査手数料

一 藥品 一種ニ付個數ノ多寡ニ拘ハラズ金五拾錢(明治二十二年十一月内務省告示第三十二號ヲ以テ改正)
印紙ヲ貼付スルモノハ別ニ一個ニ付金一錢ヲ徴シ印紙貼付ノ上仍ホ告示箋ヲ請求スルモノハ一葉ニ付金貳拾錢ヲ徴ス

左ノ各項手数料ハ一個毎ニ徴收スルモノトス

- 一 飲水及氷雪(飲料適否鑑定、定量分析) 金拾錢乃至五拾錢、金五拾錢乃至貳圓
- 一 乳汁(單簡ナル理學的検査並定性分析、定量分析) 金貳拾錢乃至壹圓、金五拾錢乃至貳圓
- 一 酒類(全、全) 金拾錢乃至五拾錢、金五拾錢乃至五圓
- 一 飲食物(全、全) 全
- 一 大氣及有害性瓦斯類(定性定量ニ拘ハス) 金壹圓乃至 五圓

藥品其他検査手数料

衛生試驗所ニ藥品等再検査請求手續

六百十八

- 一 食器中有害性金屬(定性分析、定量分析) 金貳拾錢乃至壹圓、金五拾錢乃至貳圓
- 一 衣服料 金五拾錢乃至參圓
- 一 鍍泉(定性分析、定量分析) 金壹圓 乃至拾圓
- 一 顔料 金貳拾錢乃至貳圓
- 一 玩具其他著色中有害性色質 全
- 一 化學製品(定性分析、定量分析) 金貳拾錢乃至壹圓、金五拾錢乃至五圓
- 一 礦物及金屬(定性分析、定量分析) 金五拾錢乃至參圓、金壹圓 乃至拾圓
- 一 (明治廿二年十一月内務省告示第卅二號ヲ以テ改正) 警察及裁判關係諸品(検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ) 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 前各項ノ諸品ハ其検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ相當ノ手数料ヲ徴收スヘシ
- 一 右諸品時日ヲ限リ検査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ然ルトキハ普通検査手数料ノ五倍以内ヲ増徴スヘシ

○衛生試驗所ニ藥品等再検査請求手續(明治二十四年七月)

衛生試驗所ニ於テ検査シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ検査ニ對シ不服アルモノハ再検査ヲ請フコトヲ得再検査ノ手数料ハ初回検査手数料ノ三倍ヲ前納スヘシ

○藥品巡視規則(明治二十二年三月)

内務省令第四號

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

- 第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ
- 第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品
 - 二 藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項
- 三 調劑錄
- 第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品
 - 二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項
- 第四條 監視員又ハ公私立病院及醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ
- 第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セル其時間午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス
- 第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ
- 第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

藥品巡視規則

六百十九

○阿片法 明治三十年三月 法律第二十七號

沿革略記

明治三十年八月布告ヲ以テ生阿片取扱規則ヲ制定ス○十一年八月第二十一號布告

ヲ以テ前令ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則ヲ制定ス○三十年三月法律第二十七號ヲ以テ

阿片法ヲ制定シ前則ヲ廢ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル阿片法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

阿片法

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下ケルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額並ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ內務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ增加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限り却賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量並ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ却賣人ヨリ請求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ却賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第八條 處方箋並ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二條ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 阿片製造人又ハ阿片却賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附則

第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス
第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買並ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○阿片法施行規則 明治三十年三月 內務省令第四號

阿片法施行規則左ノ通定ム

阿片法施行規則

- 第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セントスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ 內務省ニ申出ツヘシ但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ 地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ付記 シテ內務省ニ進達スヘシ 衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其成績ヲ內務省ニ報告スヘシ 但五匁未満ノ納付品ハ試驗ヲ施スニ及ハス
- 第二條 政府ニ於テ賣下クル阿片ノ容器ハ一匁入十匁入五十匁入ノ三種トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ 以テ封緘スルモノトス
- 第三條 阿片卸賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ(以下年度トアルモノ皆之ニ做フ)半年度毎ニ拂下ヲ受ク ヘキ阿片ノ數量ヲ豫算シ容器ノ種類員數ヲ記シ之ヲ地方廳ニ請求スヘシ但缺乏ノ節ハ臨時請求スル コトヲ得
- 第四條 阿片卸賣人ハ其ノ店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看板ヲ掲クヘシ
- 第五條 阿片製造人及阿片卸賣人族籍住所氏名ヲ變換スルカ又ハ廢業者クハ死亡シタルトキハ十日以

内ニ地方廳ニ届出ツヘシ

阿片製造及阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣 殘餘ノ阿片ハ前項期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者 へ讓渡スコトヲ得

第六條 第五條ノ届出納付及買戻ノ請求ハ死亡ノ場合ニ於テハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナ ルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財產ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又 ハ廢業者クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ內務省ニ報告スヘシ

第八條 藥劑師藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス阿片ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ 簿記シ十年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與フルモノハ本條ノ簿記ヲ 要セス

第九條 阿片卸賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表正副二通ヲ製シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十條 第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 第五條第八條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十二條 此ノ規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○藥用阿片賣買並製造規則 明治十一年八月 第二十一號布告

明治三年八月布告阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事但施行時

日ハ追テ内務省ヨリ可相違事

藥用阿片賣買並製造規則

- 第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス
- 第二條 藥用阿片ハ内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下シムヘシ(明治二十年勅令第五十)
- 第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス(上同)
- 第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ
- 第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ
- 第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ
- 第七條 特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但闕乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得(上同)
- 第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルトキハ其量目並ニ其住所姓名及年月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ユヘカラス
- 第九條 凡テ外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡ス可ラス

- 第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ作り其管轄廳ニ差出スヘシ但尤一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ
- 第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ
- 第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス但内務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ
- 第十四條 阿片買上及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ
- 第十五條 内務省ニ於テ買上ケ及拂下クル阿片ノ「モルヒ子」含量ハ買上品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス
- 第十六條 此ノ規則ニ違犯スルモノハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其ノ所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

阿片賣下代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ件

六百二十六

○阿片賣下代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ件 明治三十二年三月 勅令第六十五號

朕阿片賣下代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
阿片法ニ依リ納ムヘキ阿片賣下代價ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○地方廳ヨリ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續 明治二十二年三月

地方廳ヨリ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續左ノ通相定ム

藥用阿片受拂手續

- 一 地方廳ヨリ阿片ヲ拂下クルハ明治十一年八月第二十一號布告第四條ニ依リ特許ヲ得タル藥舖ニ限ルモノトス但外國人藥舖ニハ開港開市場アル地方廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ
- 一 地方廳ハ每半年分阿片拂下ノ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ內務省衛生局ヘ請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨ナシ
- 一 地方廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲ爲シ其保管及責任並ニ出納計算書ハ明治二十二年九月內務省訓令第三十六號內務省及所管廳物品出納規程ニ依ル
- 一 北海道廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル
- 一 地方廳ニ於テ阿片ヲ拂下クルトキハ其都度藥舖ノ住所氏名(外國人ナレハ其國名)瓶數代價月

日等詳細簿記シ置キ每一箇年(會計年度)分雛形ノ報告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ差出シタル書面ヲ添ヘ會計年度經過後二箇月以内ニ進達ス可シ 阿片受拂報告ハ明治二十一年度ヨリ差出ス可キモノトス

一 地方廳ニ於テハ内外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下クルトキハ代價引換ニ現品ヲ拂渡ス可シ

一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ內務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スルモノトス

(報告用紙美濃野紙)

明治何年度阿片受拂報告

廳名

受入		入		入		入	
受入年月日	百分中モルヒ子含量	瓶數	一瓶ノ價代	受入年月日	百分中モルヒ子含量	瓶數	一瓶ノ價代
前年度ヨリ越高	十乃至十一	何	瓶金何程	何	何	何	何
何年何月何日	同	何	瓶金何程	何	何	何	何
計		何	瓶金何程	何	何	何	何
拂下							
拂下年月日	百分中モルヒ子含量	瓶數	代價	藥舖住所	姓	名	
何年何月何日	十乃至十一	何	瓶金何程	何國何郡區町村	何	某	

地方廳ヨリ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續

六百二十七

阿片法ニ依ル賠償額並賣下價額

六百二十九

同	同	何	何	同	同	何	何
計		瓶	瓶	程	程	人	某
		金	金				
		何	何				
		程	程				

受拂殘

阿片何瓶

右及報告候也

明治年月日

内務大臣宛

明治何年三月三十一日現在高

長官氏名印

○阿片法ニ依ル賠償額並賣下價額

明治三十年三月内
務省告示第三十號

阿片法第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量及其賠償金額並ニ政府ニ於テ賣下クヘキ阿片ノ價格左ノ通定ム但莫見比涅含量九分以上ノ阿片ニ對スル賠償金額ハ明治三十一年三月三十一日迄ハ従前ノ買上價格ニ依ル

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量

阿片百分中莫見比涅五分以上

阿片賠償金額

阿片百分中莫見比涅五分以上六分未満ノモノ

同六分以上七分未満ノモノ

同 百匁ニ付 金一圓
同 金一圓五十錢

同七分以上八分未満ノモノ

同 金二圓

同八分以上九分未満ノモノ

同 金二圓五十錢

九分以上十二分未満ハ一分ヲ増ス毎ニ金一圓十三分以上ハ一分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ五分未満ノ納付品ハ莫見比涅含量ニ拘ハラヌ百匁ニ付金一圓ノ割ヲ以テ賠償金ヲ交付ス

阿片賣下價格

一匁入 金十錢

十匁入 金一圓

五十匁入 金五圓

○臺灣阿片令

明治三十年一月律令第二號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣阿片令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣阿片令

第一條 本令ニ阿片ト稱スルハ生阿片、阿片煙膏及粉末阿片ヲ云フ

第二條 阿片煙膏及粉末阿片ハ官ヨリ之ヲ賣下クルモノトス

阿片又ハ阿片煙膏ト同一ノ効力ヲ生セシメンカ爲阿片ノ成分ヲ含有セシメタル製劑ハ之ヲ輸入シ製造シ又ハ特許ヲ得シテ之ヲ賣買授受シ若ハ所有スルコトヲ得ス

第三條 阿片煙膏ハ阿片癮ニ陥リタリト認ムル者ニ限り其購買及吸食ヲ特許シ鑑札ヲ付與ス

第四條 左ノ營業ハ之ヲ特許シ鑑札ヲ付與ス

- 一 阿片煙膏ノ請賣
- 二 阿片煙吸食器具ノ製造販賣
- 三 阿片煙吸食器具ノ請賣

臺灣阿片令

六百二十九

四 阿片煙吸食所ノ開設

五 粉末阿片ノ卸賣但藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

第五條 醫師、藥劑師、藥種商、製藥者ニ限リ官許ヲ得スト雖粉末阿片ヲ所有シ又ハ賣買授受スルコトヲ得

第六條 第三條第四條ノ特許ヲ得タル者ハ特許料ヲ納ムヘシ其金額ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 阿片煙膏購買吸食又ハ阿片煙吸食所開設ノ特許ヲ得タル者ハ阿片煙吸食器具ヲ購買及所有スルコトヲ得

第八條 阿片煙膏ヲ輸入シ又ハ製造シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

（三十一年律令第二十號）
ヲ以テ本條以下改正

第九條 生阿片粉末阿片又ハ阿片煙膏ト同效力ノ製劑ヲ輸入シ又ハ製造シタル者ハ四年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 阿片ヲ製造スル目的ヲ以テ罌粟ヲ培養シ又ハ罌粟殼ヲ所有シタル者ハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第十一條 阿片煙吸食器具ヲ輸入シ又ハ第四條第二號ノ特許ヲ得スシテ阿片煙吸食器具ヲ製造シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 稅關官吏自ラ第八條第九條第十一條ニ記載シタル輸入ヲ爲シ又ハ其輸入ヲ許シタル者ハ刑各一等ヲ加フ

第十三條 第四條第四號ノ特許ヲ得スシテ阿片煙膏ヲ吸食スル爲吸食ノ場所又ハ器具ヲ供給シタル者ハ四年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第四號ノ特許ヲ得タル者ニシテ阿片煙膏購買吸食特許鑑札ヲ所持セサル者ニ吸食ノ場所又ハ器具ヲ供給シタル者ハ刑前項ニ同シ

第十五條 前二項ノ場合ニ於テ營利ノ目的ニ出ラサルトキハ刑一等ヲ減ス

第十六條 第三條ノ特許ヲ得スシテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者ハ前項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第十七條 官ノ指定ニ依リ阿片煙膏ヲ賣下タル者ヲ除ク外第三條又ハ第四條第一號ノ特許ヲ得スシテ阿片煙膏ヲ所有シ若シハ所持シタル者及第三條又ハ第四條第二號第三號若シハ第四號ノ特許ヲ得スシテ阿片煙吸食器具ヲ所有シ若シハ所持シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

生阿片又ハ阿片煙膏ト同効力ノ製劑ヲ所有シ若ハ所持シタル者又ハ醫師藥劑師藥種商製藥者ヲ除ク外第四條第五號ノ特許ヲ得スシテ粉未阿片ヲ所有シ若ハ所持シタル者ハ刑前項ニ同シ

第十六條 第八條乃至第十五條ノ場合ニ於テハ其物品ヲ沒收ス若既ニ其物品ヲ消費シタルトキハ相當價額ヲ徵收ス

第十七條 本令ニ依リ重禁錮ニ處セラレタル者ハ一日ヲ二圓ニ折算シ其金額ヲ以テ禁錮ニ換フルコトヲ得但し其幾分ヲ納メタルトキハ其割合ニ從ヒ金額ニ相當スル日數ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ用非ス檢察官ノ意見ヲ聽キ判官之ヲ命ス

第十八條 罰金ヲ完納セサル者ハ五年以下ノ期間獄舎ニ留置シテ罰金ニ換フ但服役セシムルコトヲ得

獄舎ニ留置スヘキ者ハ更ニ裁判ヲ用非ス檢察官ノ申立ニ依リ判官留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ言渡サレタル罰金ノ額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其罰金ニ相當スル日數ヲ控除シテ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

第十九條 第四條ニ依リ特許鑑札ヲ付與セラレタル者及官ノ指定ニ依リ阿片煙膏ヲ賣下クル者ノ家族雇人ニシテ營業上本令ヲ犯シタルトキハ其營業者又ハ賣下人ヲ處罰ス

第二十條 刑法第二編第五章第一節ハ之ヲ適用セス

○臺灣阿片令施行規則 明治三十一年三月臺
灣總督府令第十號

明治三十年三月府令第六號臺灣阿片令施行規則左ノ通改正ス

臺灣阿片令施行規則

第一章 阿片煙膏及吸食

第一條 官ニ於テ製造賣下クル阿片煙膏ハ左ノ三等トス

一等阿片煙膏(大土製)

二等阿片煙膏

三等阿片煙膏

第二條 阿片煙膏ハ地方廳ニ於テ指定シタル阿片煙膏取次人ヲシテ阿片煙膏請賣人ニ賣下ケシムヘシ

第三條 臺灣阿片令第三條ニ依リ阿片煙ニ陥リタル故ヲ以テ阿片煙膏購買吸食ノ特許ヲ得ントスル者ハ地方廳ニ於テ指定スル醫師ノ證明書ヲ添ヘ地方廳ニ願出テ阿片煙膏購買吸食特許鑑札ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ鑑札ヲ受クル者ハ鑑札下付ノ際特許料金三十錢ヲ納ムヘシ

第五條 阿片煙膏購買又ハ吸食ノ際ハ阿片煙膏購買を食特許鑑札ヲ携帶スヘシ

第二章 阿片營業並取扱

第六條 阿片煙膏取次人ハ官ノ定價ヲ以テ阿片煙膏ヲ賣下クヘシ

第七條 阿片煙膏取次人ニハ其定價額ニ對スル百分ノ一半ノ減價ヲ以テ阿片煙膏ヲ下付スヘシ

阿片煙膏ハ其代金納付ノ上下付スヘシ

第八條 阿片煙膏取次人ニ下付スル阿片煙膏ハ一回二箱以上トス

第九條 阿片煙膏取次人ハ阿片煙膏請賣特許鑑札ヲ所持スル者ニアラサレハ阿片煙膏ヲ賣下クルコトヲ得ス

- 第十條 阿片煙膏取次人ハ一罐以下ノ端數ヲ零售スルコトヲ得ス
- 第十一條 阿片煙膏取次人ハ阿片煙膏請賣又ハ阿片煙吸食所ヲ營業スルコトヲ得ス
- 第十二條 阿片煙膏取次人ハ帳簿ヲ製シ下付ヲ受ケ及日々賣下ケタル阿片煙膏ノ品種數量代價及阿片煙膏ヲ賣下ケタル請賣人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
- 第十三條 阿片煙膏取次人ハ前月中ニ於ケル前條阿片煙膏ノ品種數量及代價ヲ毎月五日限リ所轄警察官署又ハ指定サレタル場所ニ届出ツヘシ
- 第十四條 阿片煙膏ノ請賣ヲ爲サントスル者ハ地方廳ニ願出テ阿片煙膏請賣特許鑑札ヲ受クヘシ
- 第十五條 前條ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ特許料一箇年金三圓ヲ納ムヘシ
- 第十六條 阿片煙膏請賣人ハ一等乃至三等ノ阿片煙膏ヲ交互混合シ又ハ之ニ他物ヲ混和シ販賣スルコトヲ得ス
- 第十七條 阿片煙膏請賣人ハ帳簿ヲ製シ賣下ヲ受ケ及日々賣渡シタル阿片煙膏ノ品種數量及代價ヲ記載スヘシ
- 第十八條 阿片煙膏請賣人ハ前月中ニ於ケル前條阿片煙膏ノ品種數量及代價ヲ毎月五日限リ所轄警察官署又ハ指定サレタル場所ニ届出ツヘシ
- 第十九條 阿片煙吸食所ヲ開設セントスル者ハ地方廳ニ願出テ阿片煙吸食所特許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十條 前條ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ特許料一箇年金三圓ヲ納ムヘシ
- 第二十一條 藥劑師藥種商ニ於テ粉末阿片卸賣ノ特許ヲ得ントスルトキハ地方廳ニ願出テ粉末阿片卸賣特許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十二條 前條ノ鑑札ヲ受ケタルモノハ特許料一箇年金一圓ヲ納ムヘシ
- 第二十三條 醫師藥劑師製藥者ハ調劑又ハ製藥用ノ外ニ粉末阿片ヲ使用スルコトヲ得ス

- 第二十四條 粉末阿片ハ醫師ノ處方箋又ハ購買人ヨリ其量目及住所職業氏名ヲ記シ調印シタル證書ヲ受領スルニアラサレハ販賣又ハ授受スルコトヲ得ス
- 第二十五條 粉末阿片卸賣ノ特許ヲ得タル者ハ帳簿ヲ製シ官ヨリ賣下ヲ受ケ又ハ他ノ卸賣特許ヲ得タル者ヨリ買受ケ及日々醫師藥劑師藥種商製藥者ニ賣渡シタル粉末阿片ノ量目並其賣買人ノ住所職業氏名ヲ記載スヘシ
- 第二十六條 醫師藥劑師製藥者ハ帳簿ヲ製シ其買受ケタル粉末阿片ノ量目其年月日及買入先ノ住所職業氏名及日々使用シタル量目ヲ記載スヘシ
- 第三章 阿片煙吸食器具
- 第二十七條 阿片煙吸食器具ヲ製造販賣セントスル者ハ地方廳ニ願出テ阿片煙吸食器具製造販賣特許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十八條 前條ノ鑑札ヲ受ケタルモノハ特許料一箇年金六圓ヲ納ムヘシ
- 第二十九條 阿片煙吸食器具ノ請賣ヲ爲サントスル者ハ地方廳ニ願出テ阿片煙吸食器具請賣特許鑑札ヲ受クヘシ
- 第三十條 前條ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ特許料一箇年金三圓ヲ納ムヘシ
- 第三十一條 第二章及第三章ノ特許料ハ前年十二月二十五日限リ之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ特許鑑札ヲ受ケタルトキ其年分ノ特許料ヲ納ムヘシ其十二月二十六日以後ニ係ルモノハ其年及翌年分ヲ同時ニ納ムヘシ
- 第三十二條 阿片煙吸食器具製造販賣人及請受人ハ帳簿ヲ製シ日々製造シ及賣買シタル器具ノ種類箇數及賣買人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第四章 雜則

第三十三條 各特許鑑札ヲ毀損亡失シ及轉居改氏名等ノ爲鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄警察官署若ハ指定サレタル官署ヲ經テ鑑札ノ換書又ハ再下付ヲ地方廳ニ願出ツヘシ但亡失ノ場合ヲ除ク外鑑札ヲ添付スヘシ

他管轄地へ轉住シタル場合ハ舊管轄廳へ其旨届出テ新管轄廳ニ鑑札ノ書換ヲ願出ツヘシ

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ鑑札ノ書換又ハ再下付ヲ受クル際特許營業者ハ金五十錢ヲ阿片煙膏購買吸食特許者ハ金十五錢ヲ納ムヘシ

第三十五條 第三十三條ノ場合ニ於テ警察官署又ハ指定サレタル官署ハ特許鑑札ノ再下付マテ假鑑札ヲ下付スルコトヲ得假鑑札ハ特許鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ地方廳ニ届出テ特許鑑札ヲ返納スヘシ但死亡ニ係ルトキハ其相續人又ハ死者ノ財産ヲ管理スル者ヨリ返納スヘシ

一 阿片煙膏購買吸食特許鑑札ヲ受ケタル者死亡シ又ハ購買吸食ヲ廢止シタルトキ

二 阿片煙膏請賣人阿片煙吸食所粉未阿片卸賣營業者阿片煙吸食器具製造販賣人及請賣人死亡又ハ廢業シタルトキ

第三十七條 阿片煙膏請賣阿片煙吸食器具製造販賣又ハ請賣阿片煙吸食所粉未阿片卸賣ノ各特許ヲ得タル者ハ鑑札面記載ノ場所ニ限り營業ヲ爲スモノトス其支店ヲ設ケントスル者ハ各本條ニ依リ別ニ鑑札ヲ受クヘシ

第三十八條 各特許者死亡廢業等ノ場合ニ於テ現存スル阿片煙膏粉未阿片又ハ阿片煙吸食器具ハ三十日以内ニ所轄警察官署若ハ指定サレタル官署ノ認可ヲ受ケ特許營業者ニ賣渡スヘシ但死亡ニ係ルトキハ其相續人又ハ死者ノ財産ヲ管理スル者ニ於テ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十九條 特許營業人ハ前條ニ依リ阿片煙膏粉未阿片又ハ阿片煙吸食器具ノ買收ヲ請フ者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ買收スヘシ

第四十條 特許營業人阿片ニ關スル犯罪若ハ營業上不正ノ行爲アルトキハ其業ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ

第四十一條 第二章第三章ノ特許料ヲ其期限内ニ納メサルトキハ特許ノ效ヲ失フモノトス

第四十二條 知事廳長ハ阿片取締細則ヲ設ケタルコトヲ得

第五章 罰則

第四十三條 第五條第六條第十條第十六條第二十三條第二十四條ニ背キタル者及各特許鑑札ヲ他人ニ貸與シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十二條第十三條第十七條第十八條第二十五條第二十六條第三十二條第三十八條ニ背キタル者及第三十九條ニ違背シ故ナク買收セザル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件 明治三十三年二月法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ

飲食物及諸取締規則飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件

六百三十七

直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試験ノ爲必要ナル分量ニ限り無償ニテ收去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帶スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件 明治三十三年三月 內務省令第十號
飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件左ノ通定ム

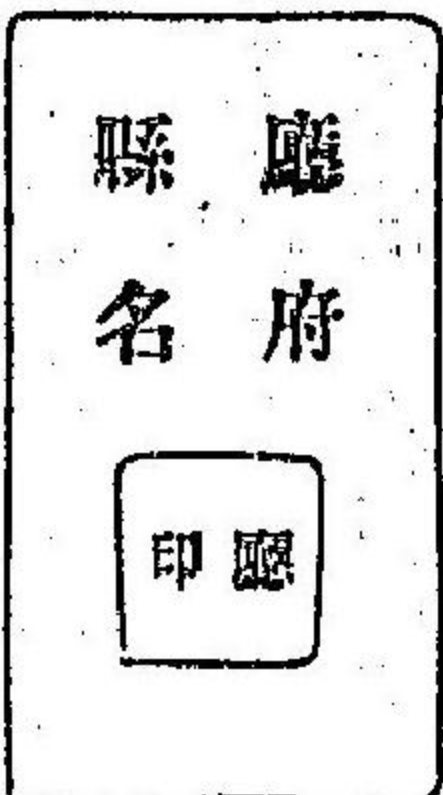
第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ除ク以下之ニ依ル)ハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年二月法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ
前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得
第二條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年二月法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帶セシムヘシ
證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
二寸二分

表 飲食物監視員之證



表

裏



第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

○牛乳營業取締規則 明治三十三年四月 內務省令第十五號

牛乳營業取締規則左ノ通定ム

牛乳營業取締規則

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用

牛乳營業取締規則

ニ供スル煉乳及粉乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ一・〇三三乃至一・〇三八トス

牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中二・七分以上脱脂乳ニ在リテハ百分中〇・五分以上ノ範圍ニ於テ地方長官其ノ程度ヲ定ムヘシ

第三條 煉乳ハ水分ヲ除ク外全乳ノ諸成分ノ三倍以上ヲ含有スルモノトス

煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五・〇分以下トス

第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ検査セシムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス

- 一 牛痘、炭疽、傳染症胸膜肺炎、流行性鵝口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃膽、「アクチノミコーゼ」氣腫、疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎、其ノ他熱性諸病ニ罹ル牛

二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛

三 分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒付不良ニシテ且有害ノ粘藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛珐瑯ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ

三 他物ヲ混合シタルモノ

四 第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ

五 第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 他物ノ混合シタルモノ

三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ

四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料トシタルモノ

五 第三條ノ規定ニ適合セサル煉乳

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記スヘシ

牛乳營業者ハ全乳ト明記シタル容器ニ脱脂乳ヲ容ル、コトヲ得ス

第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒、及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ

第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹ルル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用非タル牛乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 乳牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

第二十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○牛乳營業取締規則ニ依ル比重及脂肪量ノ檢定方法 明治三十三年五月 內務省令第二十號

牛乳營業取締規則第二條牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法左ノ通定ム

一 比重

攝氏十五度ニ於テクウエンヌ、ミユルレル氏ノ乳稠計ヲ用ヒ計測ス若シ他ノ溫度ニ於ケルトキハ矯正表ニ依リ攝氏十五度ニ於ケル比重ニ換算ス

一 脂肪

牛乳十立方「センチメートル」ヲマルシヤン氏乳脂計ニ取り加里瀉液(比量一・二・三・六)三滴ヲ混和

シ次ニ依的兒(比量〇・七・二・五)十立方「センチメートル」ヲ加ヘテ密栓シ強ク振蕩シ更ニ酒精(九

乃至九十二容量)十立方「センチメートル」ヲ加ヘ強ク振蕩シタル後攝氏四十度ノ溫湯中ニ十分

間挿入シ次ニ攝氏二十度ノ溫ヲ有スル水中ニ三十分乃至一時間靜置シ茲ニ析出セル依的兒層ヲ

シユミット、トルレンス氏ノ脂肪計測表ニ照ラシ脂肪百分中ノ脂肪量ヲ定ムヘシ

○有害性著色料取締規則 明治三十三年四月 內務省令第十七號

有害性著色料取締規則左ノ通り定ム

有害性著色料取締規則

第一條 有害性著色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 左ニ掲クル物質又ハ之ヲ含有スルモノ

砒素、拔留謨、嘉度密烏謨、格羅謨、銅、水銀、鉛、錫、安知母紐謨、烏拉紐謨、亞鉛、藤黃、必偈林酸、一チニトロクレゾール、「コラルリン」

牛乳營業取締規則ニ依ル比重及脂肪量ノ檢定方法

第二種

硫酸拔留謨、硫化嘉度密烏謨、酸化格羅謨、朱、酸化錫、ムツシーフ、金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錫、亞鉛及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條 有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス

第三條 有害性著色料ヲ以テ著色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 漆、硝子、釉藥又ハ珪瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ
- 二 第一條第二種ノ著色料ヲ以テ著色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物ニ其ノ著色料混入ノ虞ナキモノ

第四條 第一條第一種ノ著色料ハ販賣ノ用ニ供スル化粧品、齒磨、小兒玩弄品（繪雙紙、錦繪、色紙ヲ含ム）ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 漆、硝子、釉藥又ハ珪瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ
- 二 護謨質ニ融和シタル金硫黃

第五條 砒素ヲ含有スル著色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ用ユル物品又ハ其ノ材料ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ布片百平方センチメートル中ニ「ミリグラム」以下ノ砒素ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第二條ニ違背シテ著色シタル飲食物第三條ノ容器被包及ヒ之ヲ使用シタル飲食物又ハ第四條若ハ第五條ニ違背シテ製造シタル物品若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第七條 前條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第八條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第九條 第二條乃至第六條ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 鉛自ハ當分ノ内第四條ノ規定ニ拘ハラズ化粧品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○清涼飲料水營業取締規則 明治三十三年六月 內務省令第三十號

清涼飲料水營業取締規則左ノ通り定ム

清涼飲料水營業取締規則

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」「リモナーデ」（果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム）曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造（清涼飲料水ニ供スル鑛泉）販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ検査セシムヘシ
第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其合金ニテ製シタル調製器、容器、又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在

ラヌ
第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ萋兒色素薩葛林、有害芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 潤濁又ハ變敗シタルモノ
- 二 沈澱物アルモノ
- 三 鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離酸ヲ含有スルモノ
- 四 砒素、安知母紐膜、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 五 萋兒色素ヲ含有スルモノ
- 六 薩葛林ヲ含有スルモノ
- 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
- 八 防腐劑ヲ含有スルモノ

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ地方長官ハ容器ノ種類又ハ製造販賣ノ方法ニ依リ封緘ヲ要セスト認ムルモノニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條 地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十二條 左ニ掲グル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者
- 二 第三條乃至第五條ニ違背シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○冰雪營業取締規則 明治三十三年七月内 務省令第三十七號

氷雪營業取締規則左ノ通定ム

氷雪營業取締規則

第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其卸賣者ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 氷雪營業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但請賣營業ヲ爲サントスル者ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備並ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス

氷雪融解水ノ百分中格魯兒量ハ二分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇・〇五分過滿俺酸加留謨消費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條 氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請賣スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラヌ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテモ亦同シ

- 一 氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ
- 二 第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則ノ規定施行ニ至ルマテ地方長官ハ必要ナル取締規則ヲ設ケ明治三十三年二月法律第十五號ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 地方長官ハ氷雪ノ採取、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總官之ヲ行フ

〇漚入紙製造取締規則 明治二十年七月勅令第三十六號

朕漚入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漚入紙製造取締規則

第一條 文字書紋ヲ漚入シタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハ二届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス警視廳

第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字書紋又ハ凸ニ文字書紋ヲ漚入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○滙入紙製造届出手續 明治二十年八月大藏省令第十二號

文字書紋ヲ滙入シタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品ニ葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書ニ通テ管轄廳東京府ハニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞達スルモノトス
(雛形略之)

○通貨及證券模造取締法 明治二十八年四月法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

通貨及證券模造取締法

- 第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
- 第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ
- 第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

○質屋取締法 明治二十八年三月法律第十四號

沿革略記 明治十七年布告第九號ヲ以テ質屋取締條例ヲ制定ス○二十八年法律第十四號ヲ以テ前條例ヲ廢シ更ニ質屋取締法ヲ制定ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル質屋取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

質屋取締法

- 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスルモノハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ
廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ
- 第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ
 - 一 利子割合
 - 一 流質期限
 - 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方

一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス
貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スルモノニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時

タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限り其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ(三十二年法律第六十一號ヲ以テ本條中改正)

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタルモノハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尚ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

質屋取締法

- 第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用非ス
- 第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
- 第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 附則
- 第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ
- 第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス
- 第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○質屋取締法細則 明治二十八年七月

明治二十八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

- 質屋取締法細則
- 第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
- 警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ツヘシ
- 第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届

- 出ツヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ
- 後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ツヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ツヘシ
- 後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戶長ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
- 第五條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
- 第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ
- 第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

○古物商取締法 明治二十八年三月

月法律第十三號

- 沿革略記 明治十六年第五十號布告ヲ以テ古物商取締條例ヲ制定ス○二十八年法律第十
- 三號ヲ以テ前條例ヲ廢シ更ニ古物商取締法ヲ制定ス
- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 古物商取締法
- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾分ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交

換ヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其旨行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ツヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及雜賣

二 刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受ケルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ買受シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領證證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ズ停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ三箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ買買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要

アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲タル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第二條ノ免許ヲ受ケヌシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違反シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ル

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○古物商取締法細則 明治二十八年七月 內務省令第八號

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通之ヲ定ム

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テ

ハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)以下之ニ做(シ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若ハ停止シ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解

クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

- 與服商 金物商 袋物商 小間物商 籠甲商 時計商
- 飾商 書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ツヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ツヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ツヘシ

後見人ニ依リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ地所ニ運搬シ又ハ他人ニ交付セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交付ノ

行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サシトスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限り行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續

ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添へ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間、場所及參集スヘキ營業ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ販賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其日時並場所ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第十二條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取り讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ヌ

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十五條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○石油取締規則 明治十六年二月第六號布告

沿革略記 明治十四年八月第四十號布告ヲ以テ石油取締規則ヲ制定ス○十六年第六號布告

ヲ以テ前則ヲ改正ス

明治十四年八月第四十號及同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年八月第四十四號布告ノ通りタルヘシ(十六年第十號布告ヲ以テ施行日限ノ儀ハ追テ布告ナスマテ延期)

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗溫器三十度(華氏八十六度)以上ノ溫度ニ達セザル

ハ發焰セザルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ

於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ壙業者精製者間屋及小賣商ノ四種トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下ノ許)

可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ「內務卿」ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

石油ハ検査済ノ證アルモノニアラザレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壙業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此

限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋內ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ

- 容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ
- 第六條 石油營業者前條制限外ノ石油並ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳ハ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 第二種ノ石油ハ精製者間屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り販賣スルヲ得ルモノトス
- 第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス
- 第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス
- 第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○肥料取締法 明治三十二年四月 法律第九十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル肥料取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

肥料取締法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ肥料ト稱スルハ農産物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ
- 第二條 肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ地方長官(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 地方長官(東京府ハ警視廳)ハ何時タリトモ官吏ヲ派シテ肥料ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得前項ニ依リ臨檢ヲ爲ス官吏ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ
- 第四條 肥料ノ製造販賣者又ハ販賣者ハ前條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ検査ノ爲必要ナル肥料ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

トヲ得ス

- 第五條 第二條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 第四條ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 肥料ヲ偽造若ハ他ノ物料ヲ混和シテ販賣シ又ハ情ヲ知テ之ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料ハ沒收ス
- 第八條 第四條ニ違犯シ又ハ第七條ノ刑ニ處セラレタル者ハ行政廳ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得
- 第九條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 附 則
- 第十條 此ノ法律施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○電氣事業取締規則 明治三十年六月 遞信省令第十四號

明治二十九年五月 遞信省令第五號電氣事業取締規則左ノ通改正ス

電氣事業取締規則

第一章 總則

- 第一條 此ノ規則中電氣事業ト稱スルハ電燈、電氣鐵道及其ノ他ノ電力事業ヲ謂フ但シ私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道及船舶内ノ電燈及電力事業ハ之ヲ除ク
- 第二條 此ノ規則中電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ
- 第三條 此ノ規則中電路ト稱スルハ發電機、電線其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ

第四條 此ノ規則中線路ト稱スルハ家屋外ニ施設セル電線及其ノ支持物ヲ謂フ
第五條 此ノ規則中引込線ト稱スルハ幹線ヨリ分岐シ需用者構外ニ於ケル支持物ヲ經由セス其ノ需用者ニ達スル屋外電線ヲ謂フ

第六條 此ノ規則中底壓ト稱スルハ直流法ニアリテハ六百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三百實效「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ

高壓ト稱スルハ底壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三千五百實效「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ

特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第七條 電氣事業ヲ爲サントスル者ハ營業用タルト自家用タルトヲ問ハス其ノ事業ノ種類ニ依リ第三十三條若ハ第八十一條ニ掲グル書類ヲ添へ遞信大臣ニ願出許可ヲ受クヘシ

此ノ規則第三十七條ニ掲グル場所以外ニ施設スルモノ及一時限リノ演藝興行用ニ供スルモノニシテ之ニ使用スル電氣ノ電壓直流法ニアリテハ五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ二百五十實效「ヴォルト」以下ニシテ其ノ電氣力二千「ワット」ヲ超過セザルモノハ前項規定ノ限ニ在ラス但シ工事施行前

此ノ規則第三十四條ニ掲グル工事設計明細書ヲ添へ遞信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更スル場合亦同シ

第八條 特別高壓電氣ノ使用ハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限リ遞信大臣其ノ土地ノ情況ニ依リ許可スルモノトス

第九條 事業者事業ノ許可ヲ受ケタル後第三十三條第二項乃至第四項若ハ第八十一條第二項乃至第四項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ工事施行認可以前ニ於テ第三十三條第五項若ハ第八十一條第五項ノ事項ヲ變更セムトスル場合亦同シ

第十條 事業者ハ事業ノ許可ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ第三十四條及第三十五條又ハ第八十二條及

第八十四條ノ區別ニ從ヒ工事施行ノ認可ヲ遞信大臣又ハ地方長官ニ出願スヘシ

前項ニ據リ工事施行ノ認可ヲ受ケタルモノハ其ノ日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ着手スヘシ其ノ増設又ハ變更ノ認可ヲ受ケタル場合亦同シ

第十一條 遞信大臣ハ臨時吏員ヲ派遣シ電氣工事施行中ノ工事又ハ事業開始後業務ノ實況ヲ監査セシメ其ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ但シ監査ニ係ル試験費用ハ事業者ノ負擔トス

第十二條 遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ若シ試験ノ成績不完全ナリト認ムルトキハ改修又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ但シ其ノ試験ニ係ル費用ハ事業者ノ負擔トス

第十三條 遞信大臣ハ地方長官 東京府ハ警視總 以下ニ依テ第十一條ノ監査又ハ第十二條ノ試験ヲ爲サシムルコトアルヘシ若シ地方長官ニ於テ危險急迫ナリト認ムルトキハ改修又ハ撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十四條 事業者其ノ施設スル工事落成シタルトキハ其ノ工事施行ノ認可ヲ受ケタル區別ニ從ヒ遞信大臣又ハ地方長官ニ届出ヘシ

遞信大臣又ハ地方長官ハ前項ノ届出ニ依リ吏員ヲ派遣シ其ノ落成工事ヲ検査セシメ完全ナリト認ムルトキハ使用認可證ヲ下付スヘシ其ノ證ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス但シ遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ特ニ検査ノ必要ナシト認ムルモノハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ

第十五條 事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添へ遞信大臣ニ届出ヘシ爾後之ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添へ届出ヘシ但シ遞信大臣ニ於テ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 事業者其ノ事業ノ一部若ハ全部ヲ賣買又ハ讓渡セムトスルトキハ當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ願出許可ヲ受ケヘシ

前項ニ據リ許可ヲ受ケタル事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ届出ヘシ

第十七條 左ノ事項ハ事業者三日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

- 一 事業ノ開始及廢止
- 二 會社又ハ事務所名稱ノ變更
- 三 會社又ハ事務所ノ位置及其ノ變更
- 四 事業者又ハ主任技術者ノ改氏名
- 五 取締役、業務擔當者其ノ他事業管理者ノ氏名若ハ其ノ變更又ハ改氏名
- 六 送電ノ停止及廢止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ

第十八條 事業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ地方長官ニ届出ヘシ

第十九條 事業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ出張員ハ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ現場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯スヘシ

第二十條 事業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ其ノ區域内ノ電流ヲ遮斷スヘシ
前項ニ依リ送電ヲ求メタル區域内電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第二十一條 前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 地方長官ハ出火其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險豫防ノ手續ヲ爲サシムルノ必要アリト認ムルトキハ常ニ線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

散宿所ニハ屋外衆人ノ眩曠キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第二十三條 事業者第十條ニ規定スル期限内ニ工事施行認可ノ出願ヲ爲サス又ハ工事ニ著手セス又ハ落成期限ヲ過クルモ尙ホ落成セス若ハ使用認可書ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ線路ヲ使用セサルトキハ逓信大臣又ハ地方長官ニ於テ事業ノ許可又ハ工事施行ノ認可ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ但シ天災其ノ他正當ノ理由アリト認ムルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第二十四條 前條ニ據リ逓信大臣又ハ地方長官ニ於テ事業ノ許可若ハ工事施行ノ認可ヲ取消シタルトキ又ハ事業者廢業ノトキニ於テハ地方長官ニ於テ期間ヲ指定シ線路ノ撤去ヲ命スヘシ若事業者之ヲ怠ルトキハ地方長官ニ於テ之ヲ執行シ事業者ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第二十五條 送電ヲ廢止シタル線路ハ地方長官ニ於テ期限ヲ指定シ之カ撤去ヲ命スルコトアルヘシ若シ事業者之ヲ怠ルトキハ前條ノ例ニ依リ處分ス

第二十六條 此ノ規則ニ據リ逓信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳東京府ハヲ經由スヘシ警視廳

第二十七條 逓信大臣又ハ地方長官ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ此ノ規則第四十七條第六十九條第

八十九條第九十條第九十二條第九十三條及第四百四條ノ記録ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第二十八條 此ノ規則中第三十八條第七十五條第七十八條第七十九條第八十條及第九十五條第一項ノ規定ハ自家用電氣事業ニ適用セズ

第二十九條 此ノ規則中第三十六條第四十條第五十五條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條及第六十九條ノ規定ハ發電所、配電所及變壓所内ニ適用セズ

第三十條 自家用ノ爲施設スル電氣事業ハ此ノ規則第三十三條及第三十四條若ハ第八十一條及第八十二條ノ願書ヲ同時ニ提出スルコトヲ得

第三十一條 事業者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ據リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ逓信大臣ハ電氣ノ使用ヲ停止シ又ハ事業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十二條 逓信大臣ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ此ノ規則規定以外ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二章 電燈及電力

第一節 出願及報告

第三十三條 此ノ規則第七條ニ據リ電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ添付スヘシ

一 會社又ハ事務所ノ名稱

二 事業ノ目的

三 供給區域 自家用ニアリテハ使用區域

四 發電所、變壓所及配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域 自家用ニアリニ達スル線路ノ經過地名及其ノ略圖(縮尺凡二萬分ノ一)

五 工事設計 原動力ノ種類及其ノ馬力數、電氣方式、電氣馬力數又ハ「ワット」數、線路ノ種類ヲ記入スルヲ要ス

第三十四條 電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得タル者ハ工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ逓信大臣ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

一 工事設計明細書 發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ設置法、發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」數、變壓器ノ種類、電氣方式、配電法、線路ノ種類及其ノ構造法、

保安裝置法ヲ明細

ニ記入スルヲ要ス

二 落成期限 工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ検査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限

工事設計明細書ニハ原動機ノ種類、箇數及其ノ馬力數ヲ記載セル書類ヲ添付スヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ都度逓信大臣ニ届出ヘシ

第三十五條 線路ヲ新設延長若ハ變更セムトスルトキハ其ノ都度工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ地方長官ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ電柱、埋線試驗口ノ位置、埋線ノ深サ及落成期限ヲ變更セムトスル場合亦同シ但シ引込線、共同引込線及使用者構内ニ在ルモノハ認可ヲ受クルヲ要セス

一 線路敷地使用許可書類若ハ地主ノ承諾書又ハ其ノ謄本
二 線路實測圖面(縮尺二千分ノ一) 發電所、變壓所及配電所ノ位置、電柱、埋線、試驗口及線路ノ位置、道路ノ幅員、埋線ノ深サ、電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置及鐵道ト交又スル所アレハ其ノ位置等ヲモ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス

三 落成期限 工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ検査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限

第三十六條 電燈線又ハ電力線ヲ増設シ若ハ撤去シタルトキハ三日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ但シ引込線、共同引込線及使用者構内ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 劇場、客席、紡績工場又ハ火藥、石油其ノ他爆發燃燒シ易キ危險ノ物品ヲ製造シ若ハ貯藏スル場所内ニ電氣ヲ供給セムトスルトキハ事業者及需用者連署ノ上擔當技術者ノ署名シタル工事方法書ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但シ一時限リ劇場内ニ於テ演藝興行用ニ供スル爲ニ二千「ワット」ヲ超過セサル電氣ヲ供給セムトスルトキハ本條ノ認可ヲ受クルヲ要セス其ノ都度地方長官ニ

届出ヘシ
 前項ニ據リ地方長官ノ認可ヲ得テ施行シタル工事落成ノ後ハ三箇月毎ニ一回主任技術者ノ試験成績書ヲ地方長官ニ差出スヘシ
 第三十八條 引込線、共同引込線ヲ新設増設又ハ變更撤去シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ毎月一回取纏メ地方長官ニ届出ヘシ但シ引込線、共同引込線ニ移動ナキモ左ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 需用ノ場所
- 二 電燈ノ種類、白熱燈、弧 及其ノ箇數
- 三 電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」數

第二節 工事

第三十九條 電路ハ全部大地ヨリ充分絶縁スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得
 第四十條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ温度ヲ増スコトナク且絶縁物ニ變化ヲ顯ハササルモノタルヘシ
 第四十一條 各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ温度ヲ増サシムヘカラス
 第四十二條 各電路ニハ必要ナル場所ニ避雷ノ装置ヲ爲スヘシ
 第四十三條 高壓線路ニハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ
 第四十四條 電路ニハ必ス漏電ヲ檢スルノ装置ヲ爲スヘシ但シ逓信大臣ニ於テ電路ト大地トヲ接続スルコトヲ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 各高壓電路ニハ發電所ニ於テ鋭敏ナル自動遮断法ヲ設クヘシ

第四十六條 架空電線ハ總テ絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノタルヘシ
 三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里五百「オーム」以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ護膜又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里四十萬「オーム」以上ノモノタルヘシ
 人家ヲ離隔シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナシト認ムル場所ニ於ケル架空電線ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第四十七條 屋外架空高壓電線ノ大地トノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ一里平均十萬「オーム」ヲ下ルヘカラス但シ土地ノ情况ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ヲ低減スルコトヲ得

前項ノ絶縁力ハ毎月一回之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第四十八條 屋外ニ架設スル架空電線ノ切断面積ハ直径六厘五毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナルヘカラス
 第四十九條 道路ニ架設スル架空電線ハ道路ノ片側ニアラサレハ其ノ架設ヲ許サス若電氣鐵道用架空電線又ハ他ノ電燈、電力用架空電線ノ架設シアル道路ニ架設スルトキハ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但シ工事止ムヲ得サル場所ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十條 架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架設スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十一條 弧狀電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ並行ニ架設スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十二條 他人ニ屬スル架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト並行交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ左ノ距離ヲ保タシムヘシ但シ電信線、電話線其ノ他電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工地上止ムヲ得サルモノニ限り本條規定ノ距離ニ據ラズシテ架設スルコトヲ得ヘシ但シ二尺以内ニ接近セシムヘカラス

一 電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ架設スルトキ及往復線並架ノ直流法電燈線ト電話線ト並行シテ架設スルトキハ六尺以上

二 交流法電燈線、單線架設ノ直流法電燈線又ハ電力線ニシテ電話線ト並行シテ架設スルトキハ十二尺以上

三 電信線、電話線其ノ他電氣信號線ト交叉又ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上

第五十三條 他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ

但シ工地上已ムヲ得サル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架設スルモノハ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十四條 電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日マテニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第五十五條 弧狀電燈ハ炭素粉ノ墜落スルコトナキ豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

屋外ノ弧狀電燈ハ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ

第五十六條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十七條 引込線ヨリ分岐シ道路ヲ横斷セシテ五箇以内ノ需用者ニ共同引込線ヲ施設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ家屋ニ接近シタル部分ニハ特ニ第四十六條ニ規定スル高壓用絶緣電線ヲ用フヘシ

第五十八條 架空電線以外ノ電線ヲ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ施設スルトキハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル様豫防方法ヲ設クヘシ

第五十九條 埋線試験口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ様築造スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル様豫防方法ヲ設クヘシ

第六十條 高壓電線ト低壓電線ト同一ノ管若ハ樋内ニ納ムルコトヲ許サズ

第六十一條 架空電線以外ノ高壓電線ヲ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルトキハ完全ナル絶緣方法ヲ施シ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ納ムヘシ

第六十二條 電線ヲ納ムル暗渠管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ荷重其ノ他重大ナル重量ノ壓力ニ耐ヘ且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル様築造スヘシ

第六十三條 電線ヲ納メ若ハ之ヲ鐵裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短小ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノモノタルヘシ否ラサレハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第六十五條 屋内ニ施設スル電線ハ總テ被覆シタルモノヲ使用シ時々點檢シ得ヘキ所ニシテ常ニ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ若點檢シ難キ所ニ取附クルトキハ第六十六條ニ規定スル高等絶縁電線ヲ使用スヘシ

第六十六條 前條ノ高等絶縁電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里一百「メグオーム」以上ノモノタルヘシ

第六十七條 屋内ニ施設スル電線ハ碍子ヲ使用シテ之ヲ取附クヘシ常ニ乾燥セル場所ニシテ二百「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限り臺附木製「クリート」ヲ使用スルモ妨ケナシ但シ第六十六條ニ規定スル高等絶縁電線ト同等以上ノモノヲ使用スル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 電線ノ天井、壁及床等ヲ通過スル箇所又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル所ニ於テハ之ヲ碍管内ニ納メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第六十九條 屋内電線ノ絶縁力ハ機械、器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第七十條 電柱ニハ其ノ事業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ
高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第三節 變壓

第七十一條 變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ
變壓器ハ當業者ノ外容易ニ之ニ觸ルルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

石造、煉化造、土藏造及漆家等ノ外部ニ限リ第七十三條ノ例ニ據リ變壓器ヲ取附クルコトヲ得

第七十二條 變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲通當ノ方法ヲ設クヘシ

第七十三條 電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘシ

第四節 供給

第七十四條 需用者ノ家屋内ニ供給スル電氣ノ電壓ハ直流法ニアリテハ五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ二百五十實效「ヴォルト」以下タルヘシ特ニ此ノ制限以上ノ電氣供給ヲ要スルトキハ事業者需用者ト連署ノ上工事方法書ヲ遞信大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第七十五條 需用者ノ需メニ應スル電氣供給時間中ハ事業者其ノ契約セル電氣ヲ充分ニ供給シ正當ノ理由ナクシテ送電ヲ停止スルコトヲ得ス

第七十六條 電路ニ送電スルトキハ其ノ電路ヲ檢查シ安全ト認ムルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條 架空ノ高壓電線ハ一線條ニ付五萬「ワット」以上其ノ他ノ場合ニ於テハ二十萬「ワット」以上ヲ送電スルコトヲ得ス但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第七十八條 電燈幹線中各部分ノ電壓ハ常ニ其ノ百分ノ三以上ノ變動ヲ起サス且變動ノ爲光力ニ不定ヲ顯ハササル様維持スヘシ

第七十九條 需用者家屋内ノ線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊スルマテ送電ヲ停止スヘシ此ノ場合ニ於テハ豫告ノ違ナキトキノ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘシ

第八十條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル部分ヘ一時間以上送電ヲ停止スル必要アルトキハ其ノ

原因火急ニ起リタル場合ノ外豫メ關係需用者ニ停止ノ旨ヲ通知スヘシ

第三章 電氣鐵道

第一節 出願及報告

第八十一條 此ノ規則第七條ニ據リ電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ添附スヘシ

一 會社又ハ事務所ノ名稱

二 事業ノ目的

三 發電所、變壓所及配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル線路ノ經過地名及其ノ略圖(縮尺凡ニ萬分ノ一)

四 軌道略圖(縮尺凡ニ二千分ノ一) 軌道ノ位置、近傍ノ町村名、他ノ鐵道ト交又スル所アレハ其ノ位置、金屬體ノ位置ヲモ等ヲ凡 置(單線式電氣鐵道ニアリテハ地下埋没ノ金屬線、金屬管其ノ他例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス)

五 工事設計 原動力ノ種類及其ノ馬力數、電氣方式、電氣馬力數又ハ「ワ

六 軌道敷設特許狀及命令書又ハ其ノ謄本

原動力ニ水力ヲ使用スルモノハ水利使用許可書類若ハ承諾書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八十二條 電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得タルモノハ工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ逡信大臣ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

一 工事設計明細書 發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ設置法、發電機ノ種類、筒數及電氣馬力「ワ」數、電車内機械器具ノ設置法、變壓器ノ種類、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式、軌道ノ構造法、軌道ノ種類及重量(單線式電氣鐵道ニアリテハ軌道ノ接續法ヲモ)線路ノ種類及構造法、

保安裝置ヲ明細ニ記入スルヲ要ス

二 軌道實測圖面(縮尺二千分ノ一) 軌道ノ位置、近傍ノ町村名、軌道及道路ノ幅員、電信線、電話ノ位置(單線式電氣鐵道ニアリテハ發電機ノ位置、他ノ鐵道ト交又スル所アレハ其ノ位置)、金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲモ等ヲ凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス

三 落成期限 工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ検査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限

工事設計明細書ニハ原動機ノ種類、個數及其ノ馬力數ヲ記載セル書類ヲ添附スヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ都度逡信大臣ニ届出ヘシ

第八十三條 左ノ事項ハ事業者三日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

一 幹線又ハ絕縁歸線ノ増設又ハ撤去

二 車輛數及其ノ増減

第八十四條 此ノ規則第三十五條ノ規定ハ電氣鐵道ニモ亦之ヲ適用ス

第二節 工事

第八十五條 逡信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セザルコトアルヘシ

第八十六條 架空電車線ノ太サハ直徑二分五厘以上ニシテ極メテ強硬ナル線條ヲ用フヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ逡信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第八十七條 歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分及軌道ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場所ハ逡信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第八十八條 絶縁セザル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ニ據リ施設ヲ爲スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺以上タルヘシ但シ工事止ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不動體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二 歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四「ヴォルト」又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差二「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 軌鐵ハ電氣的完全ナル接觸ヲ爲スヘシ
四 軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五 軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル絶縁セザル歸線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接觸スヘシ

第八十九條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セザル部分ニ起ルヘキ最大電位ノ差及第九十條ニ規定スル接地点ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ装置ヲ爲シ之ヲ毎日記録シ置クヘシ
第九十條 發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ於テ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地点間ニ二「アムペア」以上ノ電流ヲ發セシムル様之ヲ施設シ少クとも毎月一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

前項接地点ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ

本條ニ適合セル接地点ヲ得難キ場合ニハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得
第九十一條 絶縁電線ノ絶縁力ハ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ一「アムペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ一「アムペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ但シ地下ニ埋設シタル絶縁電線ノ絶縁力ハ一里四百萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ
第九十二條 前條第一項本文ノ漏洩電流ハ毎日一回第一項但書ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第九十三條 歸線ト金屬體トノ電氣的接觸ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接觸ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第九十四條 道路ニ架設スル架空電線ハ電車線ヲ除ク外道路ノ片側ニアラサレハ其ノ架設ヲ許サス若架空ノ電燈線、電力線又ハ他ノ電氣鐵道用電線ノ架設シアル道路ニ架設スルトキハ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電信線電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十五條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障起リタル場合ニ於テ容易ニ電流ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ
幹線ハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ

幹線ニハ發電所ニ於テ敷設ナル自動遮斷法ヲ設クヘシ

第九十六條 電信線、電話線其ノ他電氣信號線ヲ架設セル場所ニ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ

第九十七條 架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノタルヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里一百「オーム」以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ第四十六條規定ノ制限ニ據ルヘシ

人家ヲ離隔シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於ケル架空電線ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十八條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部三尺以上ノ距離ニ於テ少クトモ二條ノ金屬線ヲ大地ヨリ絶縁架設スルカ若ハ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ト電氣的混觸ヲ豫防スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十九條 架空ノ電車線ハ地表ヲ距ル十六尺以上其ノ他ノ架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架設スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第一百條 此ノ規則中第四十條第四十一條第四十二條第四十四條第五十二條本文及第三項第五十三條第

五十四條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第七十條第七十一條第一項及第二項第七十二條及第七十三條ノ規定ハ電氣鐵道ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 機械及運輸

第一百一條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流法ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交流法ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一百二條 電車ニハ總テ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第一百三條 地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電車ニ避難器、速度制限器、特種ノ緩急器等ヲ裝置セシムルコトアルヘシ

第一百四條 毎日運輸スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記録シ置クヘシ

第一百五條 絶縁セサル歸線ヲ使用スルトキハ其ノ歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第四章 罰則

第一百六條 此ノ規則第七條第一項ノ許可若ハ第九條ノ認可又ハ第三十四條若ハ第八十二條ノ認可ヲ受ケヌ又ハ第七條第二項ノ届出ヲ爲サスシテ工事ニ著手シ又ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二十日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第一百七條 此ノ規則第十五條第十九條第二十條第三十五條第三十七條第五十七條第七十條第七十四條第七十五條第七十七條第七十九條第八十條第九十三條前段及第一百一條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第十八條第三十六條第三十八條及第八十三條ノ届出ヲ爲サス又ハ第二十七條ノ記録ヲ差出サス若ハ第四十七條第六十九條第八十九條第九十條第九十二條第九十三條及第四百四條ノ記録ヲ爲ササル者ハ五十錢以上二圓九十五錢以下ノ料料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百八條 第百六條第百七條ノ罰則ハ商事會社ニアリテハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員
取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第五章 附則

第百九條 此ノ規則ハ明治三十年七月十日ヨリ實施ス

第百十條 既設ノ電氣事業ニシテ此ノ規則第四十六條第二項及第三項第四十九條第五十二條本文及第
三項第五十七條第六十五條第八十八條第二項第九十四條第九十七條第二項第三項及第九十八條ノ規
定ニ適合セザルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニ限リ其ノ指定スル期限内之カ施設若ハ改造
ヲ猶豫スルコトアルヘシ
前項ノ猶豫ヲ受ケムトスル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ詳細ノ理由ヲ具シ逓信大臣ニ願
出ヘシ

○電氣事業取締規則ニ依リ願書ニ添付スヘキ書類調製提出方
明治三十年七月
逓信省告示第百

七十
六號

明治三十年六月逓信省令第十四號電氣事業取締規則第三十三條第三十四條第三十五條第八十一條第八十
二條及第八十四條ニ據リ願書ニ添付スヘキ工事設計書工事設計明細書軌道略圖軌道實測圖面並線路實
測圖面ハ左記ノ凡例ニ據リ調製提出スヘシ

- 第一 電氣事業取締規則第三十三條工事設計書ニ記載スル事項
- 一 原動力ノ種類及其ノ馬力數

二 電氣方式

火力、水力、電氣力等ノ區別及其ノ馬力數ヲ記載スルコトヲ要ス
高壓式低壓式ノ區別、直流法、交流法ノ區別 交流法ニ在テ 二線式、三線式其ノ他ノ配電法ヲ
記載スルコトヲ要ス

三 電氣馬力數又ハ「ワット」數

電氣馬力數又ハ「ワット」數ニハ電壓及流電ヲモ併記スルコトヲ要ス

四 線路ノ種類

架空線、埋線ノ區別ヲ記載スルコトヲ要ス

第二 同第八十一條工事設計書ニ記載スル事項

一 原動力ノ種類及其ノ馬力數

第三十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

二 電氣方式

第三十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

三 電氣馬力數又ハ「ワット」數

第三十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

四 電氣鐵道方式

架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式、蓄電池式其ノ他方式ノ區別並配電法ヲ記
載スルコトヲ要ス

五 線路ノ種類

第三十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

電氣事業取締規則ニ依リ願書ニ添付スヘキ書類調製提出方

第三 同第三十四條工事設計明細書ニ記載スル事項

一 發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法

發電所、變壓所及配電所内添付ノ原動機、發電機、電動機、變壓器、電流變式器、勵磁機（蓄電池ヲ含ム）、調整器、電壓計、電流計、電力計、檢相器、同期檢定器、其ノ他機械器具ノ裝置圖、電線接續圖ヲ添附シ其ノ説明ヲ記載スルコトヲ要ス

二 發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」數

發電機ノ種類ニハ最大電壓、直流、交流ノ區別 交流ニ在テハ周波度數、相ノ區別又多相ニ在テハ結線法ヲモ 直列卷、分電卷及複卷ノ區別、電氣馬力數又ハ「ワット」數並箇數ヲ記載スルコトヲ要ス

三 變壓器ノ種類

變壓器（電流變式器、電動發電機ヲ含ム）ノ種類ニハ其ノ種別一次、二次回線ノ電壓及交流、直流ノ區別ヲ記載スルコトヲ要ス

四 電氣方式、配電法

高壓式、低壓式ノ區別、直流法、交流法ノ區別 交流法ニ在テハ二線式、三線式 交流法ニ在テハ相ノ區別ヲモ 其ノ他ノ配電方式ヲ記載スルコトヲ要ス

五 線路ノ種類及其ノ構造法

架空線、埋線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、線條被覆物ノ種類、線路構造ノ大要ヲ記載スルコトヲ要ス

六 保安裝置法

發電所内外ニ於ケル開閉器、安全器、漏電計ノ種類及避雷ノ裝置、他ノ電線ト混觸ノ豫防裝

置其ノ他保安裝置ヲ記載スルコトヲ要ス

工事設計明細書ニ添附ノ原動機ニ關スル書類ニ記載スル事項

一 原動器ノ種類、箇數及其ノ馬力數

火力ヲ使用スル場合ニハ機械ノ種類、馬力數、箇數及其ノ發電機トノ接續法、汽罐ノ種類、馬力數（又ハ汽罐ノ大サ、加熱面積及火爐面積）及常用汽壓、箇數ヲ記載スルコトヲ要ス

水力ヲ使用スル場合ニハ一分時間ノ流量及落差、水車ノ種類、大サ、箇數及發電機トノ接續法ヲ記載スルコトヲ要ス

電力ヲ使用スル場合ニハ電動機ノ種類、電氣馬力數又ハ「ワット」數使用電壓、箇數及發電機トノ接續法ヲ記載スルコトヲ要ス

以上各項中圖解ノ必要アルモノハ各其ノ略圖ヲ添付スヘシ

第四 同第八十二條工事設計明細書ニ記載スル事項

一 發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法

第三十四條工事設計明細書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

二 發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」數

第三十四條工事設計明細書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

三 電車ニ裝置スル電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」數

第二項ニ準シ記載スルコトヲ要ス

四 電車内機械器具ノ裝置法

第一項ニ準シ記載スルコトヲ要ス

五 變壓器ノ種類

電氣事業取締規則ニ依リ願書ニ添付スヘキ書類調製提出方

電氣事業取締規則ニ依リ願書ニ添付スヘキ書類調製提出方

六百八十六

第三十四條 工事設計明細書ニ準シ記載スルコトヲ要ス
六 電氣方式、配電法

第三十四條 工事設計明細書ニ準シ記載スルコトヲ要ス
七 電氣鐵道方式

第八十一條 工事設計明細書ニ準シ記載スルコトヲ要ス
八 軌道ノ構造法、軌道ノ種類及重量(單線式電氣鐵道ニアリテハ軌道ノ接續法ヲモ)

各事項ニ就キ詳細ニ記載スルコトヲ要ス
九 線路ノ種類及構造法

架空線、埋線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、線條被覆物ノ種類、電車線ノ原質及太サ、電車線ノ高サ、腕金式、吊線式ノ區別、保護線ノ架設方法、線路屈曲又ハ交叉スル箇所ニ於ケル電線支持法、線路構造ノ大要ヲ記載スルコトヲ要ス

十 保安裝置法

第三十四條 工事設計明細書ニ準シ記載スル事項及軌道ト他ノ鐵道ト交叉スル場所ニ於ケル衝突豫防法ヲ記載スルコトヲ要ス

工事設計明細書ニ添附ノ原動機ニ關スル書類ニ記載スル事項
一 原動機ノ種類、箇數及其ノ馬力數

第三十四條 工事設計明細書ニ添附ノ原動機ニ關スル書類ニ準シ記載スルコトヲ要ス
以上各項中圖解ノ必要アルモノハ各其ノ略圖ヲ添附スヘシ

第五 同第八十一條 軌道略圖ノ調製方

軌道ノ他ノ鐵道ト交叉スル所ハ該鐵道ノ前後二町以内ニ在ル部分ヲ記載スルコトヲ要ス

單線式電氣鐵道ニアリテハ軌道ノ位置ヨリ凡二町以内ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載スルコトヲ要ス

其ノ他ノ事項ハ何レモ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記載スルコトヲ要ス

第六 同第八十二條 軌道實測圖面ノ調製方

電信線、電話線其ノ他電氣信號線ハ線路ノ位置ヨリ凡一町以内ノ區域ニ在ルモノヲ記載シ軌道ノ他ノ鐵道ト交叉スル所ハ該鐵道ノ前後二町以内ニ在ル部分ヲ記載スルコトヲ要ス

單線式電氣鐵道ニアリテハ軌道ノ位置ヨリ凡二町以内ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載スルコトヲ要ス

其ノ他ノ事項ハ何レモ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記載スルコトヲ要ス

第七 同第三十五條及第八十四條 線路實測圖面ノ調製方
電信線、電話線其ノ他電氣信號等ハ線路ノ位置ヨリ凡一町以内ノ區域ニ在ルモノヲ記載シ其ノ他ノ事項ハ何レモ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記載スルコトヲ要ス

○電氣ニ關スル注意心得 明治三十一年六月遞 信省告示第百七十號

凡ソ電氣事業ノ世ヲ利スルコト大ナルハ論ヲ俟タズト雖若シ其取扱ヲ過マルトキハ危險ノ虞ナシトセ
ス決シテ注意ヲ怠ルヘカラス取扱上一人ノ不注意ヨリ甚シキニ至テハ人命財產ニ危害ヲ及ホシ其結果
遂ニ電氣事業ノ發達ヲ妨グルニ至ルコトアリ電氣事業ノ當事者ニ於テハ電氣ノ危險ヲ察シ之ニ應スル
ノ裝置方法ヲ設ケアルモ一般人民ニ於テハ趣意ヲ了解セサル爲メ知ラスシテ危險ニ陥ルコトナシトセ
ス電氣事業者ニ於テハ成ルヘク平易ノ通俗文ヲ以テ懇ニ取扱ノ注意ヲ示シ需用者ニ於テモ當業者ノ注

電氣ニ關スル注意心得

六百八十七

意ヲ服膺シ其取扱上注意ヲ慮ラサルヲ要ス今一般注意スヘキ要項ヲ列擧シテ左ニ之ヲ告示ス

明治三十一年六月三十日

逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

電氣ニ關スル注意心得

電柱及電線ニ關スル注意

- 一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良シトス殊ニ暴風雨雪雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ
 低壓電燈、電力線及電信、電話線ハ通常危險ナシト雖モ暴風雨雪並ニ事變ノ際ニハ高壓電
 燈、電力、電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱電線類ニ身體ヲ
 觸レサルヲ可トス
 電線ヲ支持スル腕木又ハ電柱ノ一部分ノ赤色ニ塗リタルモノハ危險ナル電氣ノ流通シツツ
 アルヲ示スモノナレハ之ニ接觸スヘカラス殊ニ左ノ標示アルモノハ最モ危險ナルモノナレ
 ハ注意スヘシ



- 二 電柱電線ノ近傍ニ出火アリト雖モ其道ノ心得アルモノノ外妄リニ頭部赤色ニ塗リタル電柱又
 ハ赤色ニ塗リタル腕木ヲ以テ支持スル電線ヲ切斷スル等ノコトヲ試ムヘカラス
 近傍ニ出火アリ電柱類燒ノ虞アリトモ妄リニ及物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノ
 コトアルヘカラス此道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意ス

- 三 電線電柱腕木等ニ破損アルカ之ニ接觸セル物ニ火花ヲ發スルカ又ハ其他ノ異狀アルトキハ直
 ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ

- 四 電力電燈用ノモノ又ハ之ニ接觸セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ
 電氣會社ノ役人類ニ報知スヘシ但シ電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレ
 ハ此等ハ別段トス

- 五 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ該事業者ニアラサレハ妄リニ之ニ觸ルヘカラス之ヲ移スノ必
 要アルトキハ相當ノ手當ヲ爲シ取扱フヘシ殊ニ跣足又ハ草鞋ノ儘素手ヲ以テ之ニ觸ルル如キ
 コトアルヘカラス
 萬一已ムヲ得スシテ切斷垂下線ヲ動かストキハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長
 キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其間乾キタル靴若クハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若シ跣
 足又ハ草鞋ノ儘ニテ及物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルルトキハ電氣ニ打タルルコトアルカ
 爲メナリ

室内用電力、電燈線ニ關スル注意

- 五 室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若シ損傷ノ箇所アルトキハ速ニ修補ノ手續ヲナスヘ
 シ
 室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲メ線、ゴム又ハ布ニテ包ミタルモノナレハ若シ缺損ノ
 箇所アルトキハ危險ノ虞アリ世人往々電線ヲ戸障子ノ間ノ如キ開閉ノ爲メ摩擦セララル所
 ニ挟ミ又ハ電燈球ヲ疎漏ニ上下運移シ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其儘ニ放棄シ置ク如キモ
 ノナシトセス此ノ如キハ不時ニ發火スル如キ危險ノ虞アレハ速ニ電氣事業者ニ報知シ改修

スルヲ要ス

六 室内電線ハ決シテ之ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ノコトヲナスヘカラス
 電線ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸ル如キノ類ハ其外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏泄ヲ醸生
 スルノ虞アルモノナレハ務メテ之ヲ避クヘシ

七 室内用電線電燈球其他電氣器具ハ成ルヘク濕ラサル様注意シ濕手ニテ取扱フヘカラス
 電燈ノ點滅若クハ電流ノ送停ヲナス爲メ備ヘタル開閉器ヲ使用スルノ外成ルヘク電線電氣
 器具等ニ觸ルヘカラス

電線其他電氣器具ヲ濕ラストキハ電氣ノ漏泄ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ注意スヘシ
 電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之
 ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ厚ク婢僕等ニ教ヘ常ニ注意セシムヘ
 シ

觸電者ニ對スル應急取扱法

- 八 若シ電氣ノ爲メニ氣絶シタル者アラハ直ニ被害者ヲ其電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ラサル
 様適宜ノ方法ヲ施スヘシ
- 九 電氣ノ傳ラサル様ナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ其時
 間ナキ場合ニ於テハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル及物ニテ電線ヲ斷チ切ルカ(危險ノ標示
 アル電線ヲ除ク)又ハ被害者ヲ電線ヨリ引卸スヘシ此場合ニハ素手ニテ爲ササル様注意シ必
 ス乾キタル竹木或ハ布切類ノ如キ電氣ノ傳リ難キ物ヲ用ヒテ之ヲ行フヘシ
- 十 電氣ニ觸レ氣絶シタル者アラハ直ニ醫師ヲ招キテ相當ノ手當ヲ爲スヘキハ勿論ナルカ尙ホ醫
 師ノ來ル迄トテモ決シテ等閑ニ捨置クヘカラス假ヒ蘇生ノ見込ナキ様見ユルモ少ナクモ一時

間半以上人工呼吸法ヲ用フルカ或ハ他ノ適宜ノ方法ニテ蘇生ノ手段ヲ施スヘシ

○爆發物取締罰則 明治十七年十二月 第三十二號布告

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

爆發物取締罰則

- 第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシ
 テ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス
- 第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス
- 第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタ
 ル者ハ重懲役ニ處ス
- 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫致唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス
- 第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販
 賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコ
 トヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附
 加ス
- 第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知スヘシ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
 ス

- 第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタルトキハ直チニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ二等又ハ二等ヲ減ス
- 第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ
- 第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備隠謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
- 第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○銃砲火藥類取締法 明治三十二年八月法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 本法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂ヒ火藥類ト稱スルハ火藥、雷管、導火線其ノ他爆發質物品ヲ謂フ
- 第二條 軍用銃砲及火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタル者ニアラサレハ製造又ハ輸入スルコトヲ得ス但シ火藥商及特ニ官廳ノ許可ヲ受ケタル者ノ火藥類輸入ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 新發奇明ニ係ル軍用銃砲又ハ火藥類ヲ試驗ノ爲製造セムトスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係ルモノニ付テハ海軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 第四條 軍用銃砲ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係ルモノニ付テハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第五條 銃砲製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 銃砲ノ修繕ヲ營業トスル者ハ銃砲製造營業者ト看做ス
- 第六條 銃砲商及火藥商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 火藥商及銃砲商ノ廳府縣ニ於ケル定員ハ內務大臣之ヲ定ム
- 第八條 第五條及第六條ノ營業許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ開業セス又ハ開業後一箇年間休業シタルトキハ廳府縣長官ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 第九條 銃砲製造營業者銃砲商又ハ火藥商カ法律命令ニ違背シ又ハ銃砲、火藥類ヲ危險ノ用ニ供スルノ虞アルトキハ廳府縣長官ハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
- 第十條 銃砲製造營業者ハ其ノ製造改造ニ係ル銃砲ヲ銃砲商以外ノ者ニ賣渡シ讓渡シ交換シ又ハ贈與スルコトヲ得ス但シ官廳又ハ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 銃砲、火藥類ハ行商シ又ハ露店市場其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス
- 第十二條 警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス火藥類ノ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 內務大臣ハ公共ノ安寧ヲ保持スルニ必要ト認ムルトキハ期間及地域ヲ限リ銃砲、火藥類ノ授受運搬及携帶ヲ禁シ又ハ制限スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ銃砲ノ検査ヲ爲シ又ハ銃砲、火藥類ヲ領置スル

トヲ得

第十四條 第二條ニ違背シタル者ハ刑法第五百五十七條及第六十一條ニ依リ處斷シ其ノ未タ遂ケサル者ハ列法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 第十三條第一項ノ命令ニ違背シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ物件ヲ沒收ス

第十六條 第五條又ハ第六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者及第九條ノ停止命令ニ違背シテ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十條及第十一條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ事項ニ關シ取締上必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 軍用銃砲及火藥類ノ貯藏運搬及其ノ他ノ取扱
- 二 火藥類倉庫ノ位置及其ノ構造
- 三 導火線、煙火、燐寸、爆發質玩弄品ノ製造販賣
- 四 火藥類ヲ要スル工業ニ關スル必要ナル事項

附 則

第十九條 明治五年第二十八號布告銃砲取締規則及明治十七年第三十一號布告火藥取締規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治十七年第三十二號布告爆發物取締規則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

○銃砲火藥類取締法施行規則 明治三十二年八月勅令第三百六十六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法施行規則

第一條 銃砲火藥類取締法第三條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者計畫説明書、圖案其ノ他必要ナル事項ヲ具シ製造地廳府縣長官ヲ經由シ主務省ニ願出ヘシ

試驗製造ニ關スル危害豫防ノ方法ニ付テハ廳府縣長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二條 銃砲火藥取締法第六條ニ依リ火藥商ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥商ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

本令施行前火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ輸入及卸賣ノ營業ニ限り許可ヲ受ケタル者ハ乙種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條 銃砲製造營業者ニ非サル者非軍用銃砲ヲ製造シタルトキハ製造ヲ竣リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ銃砲ノ説明書及圖案ヲ具シ製造シタル銃砲ノ數ヲ廳府縣長官ニ届出其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 銃砲商ニ非サル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ軍用銃砲ノ讓渡 賣渡 交換 贈与 受ケルコトヲ得ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

第五條 火藥商ニ非サル者ハ劇發火藥、綿火藥、ナイトログリン、ダイナミト、雷求、其ノ他劇發質ノ物品 及左ノ數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ所持スルコトヲ得ス但シ第六條若ハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 火藥
- 一貫目

- 一 小銃實包 千發
- 一 雷管信管類 千筒
- 一 導火線 百間

第六條 火藥商ニ非サル者ハ第八條ノ許可ヲ受ケル場合ト同一ノ條件ヲ有スルニ非サレハ火藥類輸入ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

火藥類輸入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ニ願出ヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ニ願出ヘシ

前項ノ許可ハ一箇年間其ノ效力ヲ有ス但シ廳府縣長官ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 火藥商ニ非サル者火藥類ヲ讓受ケントスルトキハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ效力ヲ有ス

第八條 鑛業用土工用船内銃砲用漁業用煙火製造用及火藥類ヲ要スル工業用ノ爲劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ノ許可ヲ受ケヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ノ許可ヲ受ケヘシ

廳府縣長官前項ニ掲ケタル使用ノ目的ヲ有セサル者ニ對シ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ノ讓受ヲ許可スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ受ケヘシ

本條ノ許可ハ廳府縣長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第九條 使用ノ目的ヲ具シテ輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ與ヘタル官廳ノ許可

ヲ受ケルニ非サレハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 警察官憲兵ニ於テ必要ト認ムルトキハ銃砲製造營業者、銃砲商及火藥商ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 火藥類ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ貯藏スヘシ

- 一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルヲ要ス但シ少量ノ火藥ニ限リ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
 - 二 雷管信管類及小銃實包ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製罐ニ收納スルヲ要ス
 - 三 劇發火藥ハ酸氣、鹽氣ヲ含有セサル紙又ハ布ヲ塗抹スルコトヲ得
 - 四 綿火藥及ダイナマイトノ類ハ青色試験紙ト共ニ容器ニ收納シ時時之ヲ検査スヘシ試験紙赤色ニ變スルノ徵候アルトキハ即時火藥ヲ水中ニ投棄スルコトヲ要ス
 - 五 火藥類ハ容器ト火藥類ト直接ニ觸接セサル爲紙、澁紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ少量ノ火藥ヲ白鐵葉器ニ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 雷管信管類ハ火藥並劇發火藥ト同所ニ置クコトヲ得ス
- 火藥及劇發火藥ハ各之ヲ離隔スヘシ
- 火藥ハ普通ノ油紙ヲ以テ包被スルコトヲ得ス
- 第十二條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ火藥庫若ハ警察官ノ検査ヲ受ケタル倉庫ニ非サレハ貯藏スルコトヲ得ス但シ鑛業土工ニ要スル火藥類ハ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得
- 第十三條 火藥庫倉庫及假貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類	庫ノ種類	火藥庫假貯藏所	倉	庫
火藥	藥	一萬貫目	十貫目	
雷管信管類	五貫目	一萬貫目	一萬貫目	
劇發火藥	五百貫目	一貫目	一貫目	
小銃實包	無制	無制	一萬貫目	
導火線	無制	無制	千貫目	間

火藥類ハ左ノ區別ニ從ヒ各別庫ニ貯藏スヘシ

一 火藥、小銃實包及導火線

二 雷管信管類

三 劇發火藥

第十四條 火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル火藥類ヲ貯藏シタル倉庫ニハ發火ノ虞アル他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十五條 火藥庫又ハ假貯藏所ハ其ノ位置並建設ノ方法ヲ具シ且假貯藏所ニ在テハ貯藏スヘキ火藥類ノ種類數量ヲ記シ廳府縣長官ニ差出シ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建設スルコトヲ得ス

火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ模様替ノ工事ヲ竣リタルトキハ警察官ノ検査ヲ受クヘシ
第十六條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ屋根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用井内部ニハ鐵類石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用井ルコトヲ得ス

火藥庫ニハ避雷針ヲ設クヘシ避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ屋端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十度以內ノ角度ヲ有セシムヘシ

火藥庫ノ周圍ニハ二間以上ノ距離ニ於テ高八尺以上ノ土堤ヲ築キ其ノ境界ト爲スヘシ
第十七條 警察官憲兵ハ何時ニテモ火藥庫倉庫及假貯藏所ヲ検査シ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ノ貯藏ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十八條 火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇居離宮ノ區域ヨリ十町以上ノ距離ヲ保有スヘシ
火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇陵、社寺境內、公園、火ヲ取扱フ場所、發火質物品ヲ蓄積スル場所、瓦斯ノ傳導管、宅地、公道、鐵道、電線、汽船ノ航路其ノ他內務大臣ノ指定シタル箇所ヨリ五十間以上又蓄積セル燃質物ヨリ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ火藥庫ト火藥庫ト其ノ境界ヲ接スルハ此ノ限ニ在ラス

假貯藏所ニ付テハ廳府縣長官必要ト認ムルトキハ前二項ノ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトアルヘシ

第十九條 第十三條第一項ニ依リ倉庫ニ貯藏シ得ル數量ヲ超過スル火藥類ヲ運搬セントスルトキハ其ノ種類、數量、運搬ノ日時、通路及運搬先ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ許可書ヲ携帶スヘシ

第二十條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ノ運搬ハ第十一條ニ準據スヘシ
第二十一條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ授受荷造等ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 警察官憲兵ハ危害豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ本令ニ規定スルモノノ外軍用銃砲及火藥類ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第二項廳府縣長官ノ指揮命令ニ違背シタル者

二 第二條第三項ニ違背シタル者

三 第八條ノ許可ヲ受ケサル者ニ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓渡シタル者

四 第九條ニ違背シタル者

五 第十條ニ依ル警察官憲兵ノ検査ヲ拒ミタル者

六 第十二條乃至第十六條及第十八條第一項第二項ニ違背シ若ハ第十八條第三項ニ依ル命令ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

七 第十九條ノ検査ヲ拒ミ又ハ命令ヲ受ケテ修繕ヲ爲サヌ又ハ貯藏ノ禁止若ハ停止ノ命令ニ従ハサル者

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ許可ヲ受ケサル者ニ軍用銃砲ヲ讓渡シタル者

二 第七條ノ許可ヲ受ケヌ又ハ其ノ但書ニ該當セサル者ニ火藥類ヲ讓渡シタル者

三 第八條ノ許可ヲ受ケヌシテ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケタル者

四 第十一條ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

五 第十九條第二十條及第二十一條ニ違背シタル者

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第三項第三條ニ違背シタル者及第一條第三項若ハ第二條ノ検査ヲ受ケサル火藥類若ハ

銃砲ヲ使用者ハ讓渡シタル者

二 第七條ニ違背シテ火藥類ヲ讓受ケタル者

附 則

第二十六條 從來ノ火藥庫又ハ假貯藏所ニシテ其ノ位置若ハ構造本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改ムヘシ

第二十七條 汽車若ハ船舶ニ依ル火藥類ノ運搬、運搬ニ關スル一時ノ保管及船舶ニ於ケル火藥類ノ貯藏ニ關スル規程ハ遞信大臣之ヲ定ム

○銃砲火藥類取締法施行細則 明治三十二年八月内 務省令第四十三號

銃砲火藥類取締法施行細則左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行細則

第一條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ軍用銃砲ノ種類箇數ヲ具シ所轄警察官署ニ願出ヘシ

第二條 銃砲火藥類取締法施行規則第八條ノ許可出願ニ際シ火藥類ノ數量ヲ申出ルハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

第三條 廳府縣長官銃砲火藥類取締法施行規則第八條ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ與フルトキハ許可證ヲ交付スルモノトス

前項ノ許可證ハ第十條ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ヲ申請スルコトヲ得

- 第四條 第三條並銃砲火藥類取締法施行規則第四條第七條及第十九條ノ許可證ハ甲號乃至丁號樣式ニ依ルモノトス
- 第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條及第七條ノ許可證ハ軍用銃砲又ハ火藥類讓受ノ際之ヲ讓渡人ニ交付スヘシ
- 第六條 狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者火藥類ヲ買入ル、トキハ免狀若ハ許可證ヲ讓渡人ニ示スヘシ
- 第七條 第三條ノ許可證ハ火藥類讓受ノ際讓渡人ニ示シテ第十條ノ記入及署名捺印ヲ受ケヘシ
- 第八條 銃砲又ハ火藥商ニ非サル者相續又ハ遺贈ニ因リ軍用銃砲又ハ劇發火藥若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過シタル他ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第九條 銃砲商ニ非サル者軍用銃砲ヲ廢棄シ又ハ他人ニ讓渡シ又ハ火藥商ニ非サル者火藥類ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ讓渡ノ場合ニ於テ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ハ届出ト共ニ警察官署ニ差出スヘシ
- 前項ノ届出ハ強制競賣ニ於テハ競賣人之ヲ爲スヘシ
- 第十條 第三條ノ許可證ニ依リ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ
- 第十一條 第三條ノ許可證ハ火藥類ヲ要スル事業ノ終了廢止又ハ許可ヲ取消ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ返納スヘシ
- 第十二條 軍用銃砲火藥類又ハ第三條若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第四條第七條及第十九條ノ許可證ヲ遺失喪失又ハ盜取セラレタル者ハ其ノ事實ヲ知リタル時ヨリ二十四時以内ニ軍用銃砲ノ種類箇

- 數又ハ火藥類ノ種類數量又ハ許可證ノ種類之ヲ下付シタル官廳名及遺失若ハ喪失又ハ盜難ノ狀況ニ關シ知リ得タル事實ヲ最寄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所若ハ巡回中ノ警察官吏ニ届出ヘシ
- 第十三條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ許可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得
- 第十四條 火藥商及銃砲火藥類取締法施行規則第六條ノ許可ヲ受ケタル者火藥類ヲ輸入シタルトキハ二十四時以内ニ其ノ種類數量及陸揚シタル年月日ヲ陸揚地所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第十五條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ其ノ取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數量取引ノ年月日及讓渡人並注文人讓受人ノ住所氏名其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可又ハ銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ヲ受ケタル者ニ火藥類ヲ讓渡シタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓受人ノ使用ノ目的ヲ記載スヘシ
- 第十六條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ一箇月間取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數量並各種類月末ノ現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 銃砲商又ハ火藥商ハ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ヲ一箇月分取纏メ前項届出ト同時ニ所轄警察官署ニ差出スヘシ
- 第十七條 火藥庫倉庫又ハ假貯藏所ニハ安全ノ裝置ヲ爲サ、ル燈火ヲ携ヘ又ハ燐燧吹煙具其ノ他發火ノ虞アル器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコトヲ得ス
- 火藥庫倉庫又ハ假貯藏所ニ入ラントスル者ハ戶外ニ於テ先ツ塵埃ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ
- 第十八條 火藥類ヲ運搬スルニハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺橫二尺五寸
- 橫五尺ヲ建テ看守人ヲ附シ猶火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ選フヘシ水路ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸
- 第十九條 第五條第六條第七條第八條第九條第一項第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十六

條第十七條及第十八條ニ違背シタル者並第五條ニ定メタル許可證ノ交付ヲ受ケヌ又ハ第六條ノ免狀若ハ許可證ヲ査閲セシテ軍用銃砲又ハ火藥類ヲ讓渡シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
(甲號乃至丁號樣式)略之

○銃砲商火藥商定員 明治三十二年八月內 務省告示第九十一號

銃砲商火藥商定員左ノ通之ヲ定ム
銃砲商定員ハ東京府京都府大阪府長崎縣各二十人北海道廳神奈川縣各二十五人兵庫縣三十人其ノ他ノ縣各十二人
甲種火藥商定員ハ東京府京都府大阪府神奈川縣兵庫縣長崎縣各二十三人北海道廳四十五人其ノ他ノ縣各十八人
乙種火藥商ハ神奈川縣十八人兵庫縣二十五人長崎縣五人

○銃砲取締規則 明治三十年四月 月律令第五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル銃砲取締規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

銃砲取締規則

第一條 銃砲ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但シ獵銃ハ此限ニ在ラス
第二條 銃砲販賣又ハ獵銃製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄地方廳ニ出願免許狀ヲ受クヘシ
各地方廳管內營業者ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三條 銃砲販賣營業者營業用ノ爲銃砲ヲ買入レ又ハ輸入シタルトキハ管轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第四條 獵銃製造營業者ハ其製造シタル獵銃ヲ銃砲販賣營業者以外ニ賣渡スコトヲ得ス

第五條 銃砲販賣營業者ニアラサル者獵銃短銃杖銃ヲ買受ケ又ハ讓受ケ又ハ所有セントスルトキハ管轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ其他ノ銃砲ニ付テハ管轄地方廳ノ特許ヲ受クヘシ

第六條 警察官又ハ憲兵ハ臨時營業者ノ店舖又ハ銃砲所有者ノ家宅ニ出張シ銃砲ヲ檢査スルコトアルヘシ檢査ノ際ハ何時タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 軍用ニ供セサル銃砲ト雖私ニ之ヲ製造シ又ハ輸入シタル者ハ刑法第五百七條第一項ヲ適用シ私ニ之ヲ賣渡シ又ハ讓與シタル者ハ同條第二項ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第八條 刑法第五百十八條第五百十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九條 第三條ノ檢査ヲ受ケヌ又ハ第六條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第七條ニ依リ刑ヲ受ケタルトキハ其銃砲ヲ沒收ス

第十一條 營業者此規則ニ違背シタルトキハ其情狀ニ依リ地方廳ハ其營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

附則

第十二條 從來銃砲ヲ所有スル者ハ此規則施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ此規則ニ依リ其手續ヲ爲スヘシ
第十三條 此規則ニ依リ警察官署ノ取扱フヘキ事項ニシテ其官署ノ設置ナキ地ニ於テハ管轄憲兵首部又ハ支部又ハ屯所ニ於テ之ヲ取扱フ

第十四條 此規則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

○銃砲取締規則施行細則 明治三十年四月臺灣總督府令第十三號

銃砲取締規則施行細則左ノ通相定ム

銃砲取締規則施行細則

- 第一條 銃砲販賣營業者及獵銃製造營業者ノ定員ハ各地方廳管内各三名以下ヲ限リトス
- 銃砲販賣所又ハ獵銃製造所ハ營業者一人毎ニ一箇所ニ限ル
- 第二條 銃砲販賣營業者販賣所外ニ於テ銃砲買入ノ際ハ營業免許狀ヲ賣渡人ニ示シ賣渡人ハ其免許狀ヲ檢シ銃砲ヲ賣渡スヘシ
- 第三條 銃砲販賣營業者ニアラサル者販賣營業者ヨリ銃砲買入ノ際ハ許可證又ハ特許證ヲ交付シ營業者ハ其證書ヲ受取り之ヲ賣渡スヘシ
- 第四條 銃砲販賣營業者ニアラサル者相互ニ所有ノ銃砲ヲ買受ケ又ハ讓受ケントスルトキハ其願書ニ買受ケ人賣渡人又ハ讓受人讓渡人連署スヘシ若連署スル能ハサルトキハ其證憑ヲ添ヘ差出スコトヲ得
- 第五條 左ニ掲ケタル事項ノ第一號ニ該當スルトキハ管轄地方廳第二號第三號第四號ニ該當スルトキハ管轄警察官署ヘ七日以内ニ届出ヘシ
 - 一 營業者住所氏名ヲ變換シ又ハ免許狀ヲ亡失シ又ハ廢業シタルトキ
 - 二 營業者又ハ銃砲所有者者銃砲ヲ亡失廢毀シタルトキ
 - 三 銃砲所有者住所氏名ヲ變換シタルトキ
 - 四 銃砲所有者者銃砲ヲ販賣營業者ニ賣渡シタルトキ

第六條 銃砲販賣營業者ハ第一號表式ニ依リ銃砲買貯藏表ヲ調製シ翌月七日迄ニ前月分ヲ取纏メ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但販賣ノ際買受人ヨリ受取りタル許可證書又ハ特許證ハ其届書ニ添付差出スヘシ

第七條 獵銃製造營業者ハ第二號表式ニ依リ獵銃製造賣渡貯藏表ヲ調製シ翌月七日迄ニ前月分ヲ取纏メ管轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第八條 銃砲取締規則及此細則ニ依リ地方廳ヘ差出ヌヘキ願書ハ總テ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第九條 第一條第二項第二條第三條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(表式)略之

○火藥取締規則 明治三十年四月臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル火藥取締規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

月律令第六號

火藥取締規則
第一條 此規則ニ火藥類ト稱スルハ火藥劇發火藥 縮火藥「ナイトログリセリン」、「ダイ」ヲ云フ但煙火爆竹燐寸ノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 火藥類ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス

第三條 火藥類ノ販賣營業ヲ爲サントスル者ハ管轄地方廳ヘ願出免許狀ヲ受クヘシ

第四條 營業者營業用ノ爲火藥類ヲ買入レ又ハ輸入シタルトキハ管轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第五條 煙業者ニアラサル者火藥類ヲ買受ケ又ハ讓受ケ又ハ所有セントスルトキハ管轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

銃獵又ハ爆竹煙火燐寸製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ火藥類ヲ買取ルコトヲ得

第六條 火藥類ハ火藥三百目劇發火藥三十目雷管導火管類五百箇迄ハ安全ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得
營業用又ハ坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ハ前項制限ノ外火藥十貫目劇發火藥一貫目雷管導火管類一萬箇迄ハ管轄警察官署ノ許可ヲ受ケ假貯藏所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ユルトキハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス但火藥五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第七條 火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設セントスル者ハ管轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第八條 警察官又ハ憲兵ハ臨時營業者ノ店舖火藥庫假貯藏所又ハ火藥所有者ノ家宅ニ出張シ火藥類及火藥庫又ハ假貯藏所ヲ検査スルコトアルヘシ検査ノ際ハ何時タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 軍用ニ供セサル火藥類ト雖私ニ之ヲ製造シ又ハ輸入シタル者ハ刑法第五百七條第一項ヲ適用シ私ニ之ヲ賣渡シ又ハ讓與シタル者ハ同條第二項ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六百六十條ヲ適用ス

第十條 刑法第五百五十八條第五百五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第十一條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第四條ノ検査ヲ受ケヌ又ハ第六條ニ違背シ又ハ第八條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ依リ刑ヲ受ケタルトキハ其火藥類ヲ沒收ス第十一條ニ依リ刑ヲ受ケタルトキハ其

火藥庫又ハ假貯藏所ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 營業者此規則ニ違背シタルトキハ其情狀ニ依リ地方廳ハ其營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

附則

第十五條 從來火藥類ヲ所有スル者ハ此規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ此規則ニ依リ其手續ヲ爲スヘシ

第十六條 此規則ニ依リ警察官署ニ於テ取扱フヘキ事項ニシテ其官署ノ設置ナキ地ニ於テハ管轄憲兵首部又ハ支部又ハ屯所ニ於テ之ヲ取扱フ

第十七條 此規則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

○火藥取締規則施行細則 明治三十年四月臺灣總督府令第十四號

火藥取締規則施行細則左ノ通相定ム

火藥取締規則施行細則

第一條 火藥類販賣營業者ノ定員ハ各地方廳管内各三名以下ヲ限リトス

火藥類販賣所ハ營業者一人毎ニ一箇所ニ限ル

第二條 營業者販賣所外ニ於テ火藥類買入ノ際ハ其營業免許狀ヲ賣渡人ニ示シ賣渡人ハ其免狀ヲ檢シ

火藥類ヲ賣渡スヘシ

第三條 營業者ニアラサル者營業者ヨリ火藥類買入ノ際ハ免狀ヲ示シ又ハ許可證ヲ交付スヘシ營業者

ハ免狀ヲ檢シ又ハ許可證ヲ受取り之ヲ賣渡スヘシ但一回ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ許サス

火藥取締規則施行細則

- 一 銃砲其他小銃用 火藥三百目雷管五百箇但彈藥百發
- 二 爆竹煙火製造用 火藥五百貫目劇發火藥五百目
- 三 坑業土木職業用 火藥三百貫目劇發火藥三十貫目
- 第四條 營業者ニアラサル者相互ニ所有ノ火藥類ヲ買受ケ又ハ讓受ケントスルトキハ其願書ニ買受人賣渡人又ハ讓受人讓渡人連署スヘシ若連署スル能ハサルトキハ其證憑ヲ添ヘ差出スコトヲ得
- 第五條 火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設セントスル者ハ其位置並建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第六條 火藥庫ハ社寺家屋宅地公道公園鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河港火ヲ取扱フ場所及發火質物貯藏場トノ中間ニ五十間以上距離ヲ有ツヘシ
- 第七條 火藥庫ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 建物ハ石又ハ煉化又ハ土塊ヲ以テ堅牢ニ構造シ屋根ハ輕量ノ不燃質物ヲ以テ之ヲ覆フコト
 - 二 建物ノ内部ハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス又窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヒサルコト
 - 三 避雷針ヲ設ケ屋外ノ周圍ニ高サ六尺以上ノ塙壁又ハ土堤ヲ築クコト
- 第八條 火藥庫又ハ假貯藏所ノ構造落成シタルトキハ管轄警察官署ノ検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第九條 火藥類ヲ火藥庫ニ貯藏スルトキハ各其種類ニ依リ不燃質物ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ
- 第十條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスルトキハ其名稱數量運搬ノ日時場所及通路ヲ記シ管轄警察官署ノ許可證ヲ受ケ運搬ノ際之ヲ携帶シ運搬ヲ終リタルトキハ速カニ到着地ノ警察官署ニ納付スヘシ
- 第十一條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スルトキハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製又ハ銅製又ハ亞鉛製ノ容器

- ニ入レ其外部ハ透包又ハ細巻ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ記シタル小旗ヲ建テ護送人ヲ附スヘシ
- 第十二條 火藥類ヲ船積セントスルトキハ船主又ハ船長ノ承諾ヲ受ケ防火ノ荷造ヲ爲シ之ヲ積込ムヘシ
- 第十三條 火藥類ハ日出前日没後ニ於テ賣買シ又ハ運搬シ又ハ荷造ヲ爲スコトヲ得ス但警察官署ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 第十四條 左ニ掲ケタル事項ノ第一號ニ該當スルトキハ管轄地方廳第二號第三號第四號ニ該當スルトキハ管轄警察官署ヘ七日以内ニ届出ツヘシ
 - 一 營業者住所氏名ヲ變換シ又ハ免狀ヲ亡失シ又ハ廢業シタルトキ
 - 二 火藥類所有者住所氏名ヲ變換シタルトキ
 - 三 營業者又ハ火藥類所有者火藥類ヲ亡失シタルトキ
 - 四 火藥類所有者火藥類ヲ營業者ヘ賣渡シタルトキ
- 第十五條 營業者ハ表式ニ依リ火藥類賣買貯藏表ヲ調製シ翌月七日迄ニ前月分ヲ取纏メ管轄警察官署ヘ届出ツヘシ但販賣ノ際買受人ヨリ受取リタル許可證ハ其届書ニ添付差出スヘシ
- 第十六條 火藥取締規則及此細則ニ依リ地方廳ヘ差出スヘキ願書ハ管轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第十七條 第一條第二項第二條第三條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

火藥類賣買貯藏表

火藥販賣營業住所氏

名

買		入		賣		渡		現		貯		藏	
名	種	數	量	買渡人住所名	名	種	員	數	買受人住所名	名	種	數	量

○銀行、取引所、會社

○銀行條例 明治二十三年八月 法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

銀行ノ事業ヲ營ム會社ニシテ合併セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(三十三年法律第五號ヲ以テ本項追加)

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其ノ認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス(三十三年法律第五號ヲ以テ前條中「財産目錄」ヲ削リ本條ヲ加フ)

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時マテトス(二十八年法律第一號ヲ以テ十時)但營業ノ都合ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル時ハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(三十二年法律第五號ヲ以テ改正)

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サヌ又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(上全)

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(上全)

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セヌ

○銀行條例施行細則 明治三十二年六月大藏省令第二十四號

銀行條例施行細則左ノ通相定ム

銀行條例施行細則

銀行條例施行細則

第一條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 商號

二 本店及支店ノ所在地

三 資本金額

第二條 會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ合名會社若ハ合資會社ニ在テハ各社員又ハ業務執行社員株式會社若ハ株式合資會社ニ在テハ取締役又ハ業務執行社員ノ署名シタル認可申請書ニ定款及ヒ株式申込證謄本ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ(三十二年大藏省令第三號ヲ以テ改正)

第三條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ニ會社定款ヲ添ヘ支店ノ代表者ヨリ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 支店ノ商號

二 支店ノ所在地

三 支店資本金ヲ定メタルトキハ其金額

第四條 合資會社カ其組織ヲ變更シテ合名會社トナシタルトキハ貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ(三十二年大藏省令第三號ヲ以テ本條並ニ第五條第六條中「財産目錄」ヲ削除ス)

第五條 株式合資會社カ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第六條 商法施行前ニ設立シタル合資會社カ其組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル合資會社株式會社又ハ株式合資會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第七條 銀行事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後會社各自ノ取締役又ハ業務執行社員ノ連署シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ(三十二年大藏省令第三號ヲ以テ本條改正)

一 總會ノ決議錄

一 合併ニ關スル契約書

三 合併ニ依リ存続スル會社又ハ合併ニ依リ新ニ設立スル會社ノ定款

四 會社各自ノ貸借對照表

會社カ商法第八十一條ノ手續ヲ了シタルトキハ第十二條ノ届出ト同時ニ合併ニ依リ消滅シタル會社ノ認可書ヲ還納スヘシ

第八條 第一條第三條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第九條 銀行カ定款ヲ變更シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半年年ハ毎年一月ヨリ六月迄及ヒ七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行ノ事業年度トス

第十一條 銀行條例第三條ノ營業報告ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ大藏大臣ニ發送スヘシ但遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ又ハ已ムヲ得サル事由アリテ本條ノ期間内ニ報告書ヲ發送スルコト能ハサルトキハ豫メ期日ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 銀行カ登記ヲ爲シタルトキハ登記事項及ヒ登記年月日ヲ記載シタル書面ヲ以テ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 銀行カ營業ヲ開始スルトキハ其年月日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行ノ事業ヲ營ムモノノ營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ解散シタルトキハ地

三十二年三月令
大藏省令
第三號
以附屬
雜形中
一號一第
號一第
形及第
號一第
資本形
項本以
一而金
二一以
十字下
一主及
名株主
削除ス

銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料
銀行並貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續

方長官ハ其事由ヲ具シ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ
第十五條 銀行ヨリ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルヲ要ス
附則

第十六條 本省令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス
第十七條 明治二十六年五月大藏省令第七號銀行條例施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(第一號乃至第十一號書式雜形)略之

○銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料
明治三十二年三月
法律第五十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
法律第五十三號 (官報三月十日)

銀行ニ關スル法律ニ於テ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

○銀行並貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續
明治二十六年十一月大藏省訓令第三十五號

銀行並貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續左ノ通心得ヘシ
一 銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ

爲サシムヘシ
一貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

○銀行事業ヲ營ム會社登記ヲ受ケタルトキ届出方ノ件
明治二十七年六月大藏省訓令第三十八號

銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及ヒ年月日ヲ届出サシムヘシ
但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際其登記事項及ヒ年月日ヲ届出サシムヘシ

○貯蓄銀行條例
明治二十三年八月
法律第七十三號

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例
第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受クルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニテサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス
第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス(二十八法律第十
七號ヲ以テ改正ス)

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ヲ利付國債

銀行事業ヲ營ム會社登記ヲ受ケタルトキ届出方ノ件

證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ(二十八法律第十七號)但擔保金額カ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用フルコトヲ得

第五條 前條ノ金額ハ每半箇年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム(明治二十八年法律第十七號ヲ以テ改正)

第六條 預ケ人ハ第四條ノ供託諸證券ニ就キ優先權ヲ有ス(二十八法律第十七號ヲ以テ改正)

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

○貯蓄銀行條例施行細則明治二十八年三月大藏省令第一號

明治二十六年大藏省令第八號貯蓄銀行條例施行細則左ノ通改正ス

貯蓄銀行條例施行細則

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ株券ハ明治二十

六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第二條 諸證券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ每半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類記號番號券面ノ金額枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルトキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託諸證券ニハ其銀行ノ所有ニ屬スルコトヲ證明スヘキ證書ヲ添付スヘシ(明治二十八年大藏省令第二號ヲ以テ本條改正)

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第八條 本規則ニ規定セザル者ハ總テ銀行條例細則ニ依ル

○日本銀行條例明治十五年六月第三十二號布告

日本銀行條例左ノ通制定ス

貯蓄銀行條例施行細則

日本銀行條例

- 第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
- 第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスホンデンズ」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスホンデンズ」ヲ締約スルキハ其事由ヲ「大藏卿」ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又「大藏卿」ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ
- 第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
- 第四條 日本銀行ノ資本金ハ一千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得
- 第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス
- 第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムルモノトス
- 第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金現入金額ノ内幾分ヲ減少シタルトキハ其事由ヲ審明シ資本金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ
- 第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本金殘額ヨリ追募スヘシ
- 第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ
- 第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

- 第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 - 第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事
 - 第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事
 - 第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
 - 第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事
 - 第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事
 - 第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス
 - 第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
 - 第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事
 - 第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事
 - 第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事
 - 第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ
 - 第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス
 - 第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ヶ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス
第六十一號ヲ以テ本條改正各項追加
（二十三年法律第六十一號）

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

第二十條 總裁ハ每半年期ニ通常株主總會ヲ召集ス
（二十三年法律第六十一號）
ヲ以テ本條改正各項追加

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ召集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クルモノハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 「大藏卿」ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ

「大藏卿」ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條令ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

○兌換銀行券條例 明治十七年五月 第十八號布告

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一箇年ノ後廢止ス

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス
（三十年法律第十八號）
（以テ銀貨ヲ金貨ト改ム）

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ
（十二年勅令第五十九號）
（以テ本項改正）

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
（三十年法律第十八號）
（以テ本項追加）

日本銀行ハ前項ノ外特ニ壹億貳千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項壹億貳千萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二

十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス(二十一年勅令第二本項追加二十三年法律第三十四號三十)
 日本銀行ハ市場ノ景況ニ依リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム(二十一年勅令第五十)
 日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲ニ千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ改正)
 前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム(二十一年勅令第五十)
 第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但「大藏卿」ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ
 第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス
 第五條 兌換銀行券ハ「大藏卿」ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ「大藏卿」ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前「大藏卿」ヨリ告示スヘシ
 第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ
 但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得(十八年第九號布告)
 第七條 金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス(二十年法律第十八號ヲ以テ)
 第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ(二十一年勅令第五十九號ヲ以テ改正)
 第九條 「大藏卿」ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スルコトヲ得
 第十條 兌換銀行券ノ汚染毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ
 第十一條 兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ「大藏卿」之ヲ定ムヘシ
 第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○日本銀行納稅ニ關スル件明治三十二年三月 法律第五十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本銀行納稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス
 本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス
 納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半期分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモノトス

○日本勸業銀行法 明治二十九年四月 法律第八十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ增加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス
副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ
副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス
監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ法定代理人此ノ限ニ在ラス

第十三條 日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス
(三十三年法律第三十號ヲ以テ本條削除)

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ニ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦金償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セララル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處

分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公
共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金
及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受クル
コトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査
スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ大
藏大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得(三十二年法律第二)
(號ヲ以テ條中改正)

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債
券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ
得ス

勸業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用ス(三十三年法律第三十九)
第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ二十圓以上トシ無記名札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ

依リ記名ト爲スコトヲ得(三十一年法律第二號ヲ以)

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高二應シ毎年

二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金
額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行ス
ルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊
勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケ
タル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三
十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業
債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシ
テ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造
ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處罰ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背反シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

三十二年
法律第五
十二號

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條

第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

○農工銀行法 明治二十九年四月 法律第八十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用

ヲ申出タルトキハ定期還償ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト (三十二年法律第四十號ヲ以テ本號ヲ加ヘ「四」ヲ「五」ニ改ム)

五 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第七條ノ一 前條ノ貸付ヲ爲スニハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル

- 一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良
- 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
- 三 殖林事業
- 四 種苗肥料其ノ他農工業用原料ノ購入
- 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
- 六 農工業建物ノ築造又ハ改良
- 七 前各項ノ外農工業ノ改良

第七條ノ二 産業組合法ニヨリ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合及生産組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得(三十二年法律第四十號ヲ以テ本條追加)

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セザルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場合ニ於テ農工銀行ハ償還期

限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動
產ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金定期償
還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコ
トヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金
及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用
スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ
又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

農工銀行ハ府縣郡市ノ爲ニ其ノ金銀出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得(三十二年法律第三十
三號ヲ以テ本項追加)

農工銀行ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ
保證ヲ爲スコトヲ得(三十二年法律第四十號ヲ以テ本項追加)

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限り農工債券ヲ
發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲
スコトヲ得(三十二年法律第三十
三號ヲ以テ本項追加)

農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス(三十二年法律第四十
號ヲ以テ本項追加)

第二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ
償還スヘシ

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行ズル
コトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊
農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還
ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニ
シテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造
ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發

三十二年
法律第五
十三號參
看

起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出し銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

○農工銀行補助法 明治二十九年四月 法律第八十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行補助法

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉地池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以内トス但シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十五箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以内ヲ毎年交付ス但農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス(三十二年法律第四條)

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス(三十二年法律第四十一號ヲ以テ)

前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ルルモノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十五箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得(三十二年法律第四十一號ヲ以テ)

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

○橫濱正金銀行條例 明治二十年七月 勅令第二十九號

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

橫濱正金銀行條例

橫濱正金銀行條例

- 第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
- 第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其ノ事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
- 第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得
- 第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス
- 第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得
- 第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 - 第一 外國ノ爲替及荷爲替
 - 第二 内國ノ爲替及荷爲替
 - 第三 貸付
 - 第四 諸預金及保證預
 - 第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立
 - 第六 貨幣ノ交換
- 第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

- 第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス
- 第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得ス
 - 第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ
 - 第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡又ハ賣却スルトキ
 - 第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ
- 第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニアラス
- 第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケントキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得
- 第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ仕拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ
- 第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラルル者モ亦同シ(二十二年勅令第十號ヲ以テ本條改正)
- 第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼ネシメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ
- 銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之

ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事
件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 毎季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ
對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ
背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコト
ヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ
株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ
決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條約定款ニ背戾スル所爲アル時又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト
認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(二十二年勅令第
十號ヲ以テ改正)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ(二十二年
勅令第十號ヲ以テ改正)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺ス
ヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款
ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下
ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○日本興業銀行法明治三十三年三
月法律第七十號

股險國議會ノ協贊ヲ經タル日本興業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本興業銀行法

第一章 總則

第一條 日本興業銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本興業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本興業銀行ノ株式ノ金額ハ百圓トス

第四條 日本興業銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

日本興業銀行法

第二章 重役

第五條 日本興業銀行ニ總裁一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本興業銀行ヲ代表ス

總裁及理事ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本興業銀行ノ業務ヲ綜理ス

監査役ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第八條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ業務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス

第三章 營業

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 地方債證券、社債券及株券ニ關スル信託ノ業務

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券及社債券ノ買入ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本興業銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 債券

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高及其ノ所有ニ係ル地方債證券及社債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十四條 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ外國ニ於ケル債券發行ノ規定ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 日本興業銀行ノ債券ノ利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ第十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十七條 日本興業銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ闕損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 日本興業銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 日本興業銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ日本興業銀行監理官ヲ置キ日本興業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 日本興業銀行監理官ハ何時ニテモ日本興業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

日本興業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條 日本興業銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第二十七條 日本興業銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ

第二十八條 日本興業銀行ノ總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第二十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本興業銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日本興業銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ滯滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本興業銀行總裁ニ引渡スヘシ

○北海道拓殖銀行法 明治三十二年三月 法律第七十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道拓殖銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道拓殖銀行法

第一章 總則

第一條 北海道拓殖銀行ハ北海道ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ以テ目的トス

北海道拓殖銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ北海道札幌ニ置ク

第二條 北海道拓殖銀行ノ資本金ハ三百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 北海道拓殖銀行ノ存立時期ハ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第四條 北海道拓殖銀行ニ取締役四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第五條 取締役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三箇年トス 監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第六條 取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス

第三章 營業

第七條 北海道拓殖銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 二 五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 三 北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其ノ社債券ノ應募引受
- 四 北海道ノ農産物ヲ擔保トスル貸付及荷爲替
- 五 預リ金及保護預リ

前項第三號ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ前項第一號及第二號ニ依ル貸付金總高ノ五分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 北海道區町村制ヲ施行セル區町村及其ノ他法律ヲ以テ組織セル北海道ノ公共團體ニ對シ北海道拓殖銀行ハ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトヲ得

第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券地方債證券又ハ社債券ヲ買入ルルコトヲ得

第十條 北海道拓殖銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十一條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四章 債券

第十二條 北海道拓殖銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ第十七條第一號ニ依ル貸付金高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ其ノ債券ヲ償還スヘシ

第十四條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ前條ト同時期ニ抽籤ヲ以テ延滞金額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第十五條 北海道拓殖銀行ハ債券借換ノ爲一時第十二條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十六條 北海道拓殖銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十七條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監督ス

第十八條 北海道拓殖銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主任大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 北海道拓殖銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主任大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ノ貸付金利子ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年內ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十一條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十二條 北海道拓殖銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差

出スヘシ

第二十三條 政府ハ北海道拓殖銀行監理官ヲ置キ主務大臣ノ指揮ヲ受ケテ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十四條 北海道拓殖銀行監理官ハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ニ命シテ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ北海道拓殖銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二十六條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則

第二十七條 北海道拓殖銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第十二條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ但シ第十五條第一項ニ依レルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 第十三條第十四條及第十五條第二項ノ規定ニ反シ債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

四 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

第二十八條 北海道拓殖銀行ノ取締役第六條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 北海道拓殖銀行ノ發行スル債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

附則

第三十條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行設立委員ヲ置キ北海道拓殖銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北海道拓殖銀行取締役ニ引渡スヘシ

第三十四條 北海道拓殖銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

○臺灣銀行法 明治三十年四月 法律第三十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行法

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス

臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレヌボン

ランス」ヲ締約スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ
第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許
可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引
- 第二 爲換及荷爲換
- 第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取立
- 第四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ不動産ヲ質トスル貸付
- 第五 諸預リ金及當坐貸越勘定
- 第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ
- 第七 地金銀ノ賣買
- 第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入ルルコトヲ得
第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス
第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ券面金額一圓銀貨一枚以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得
前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ一圓銀貨ト引換フルモノトス

二年法律第三十四號
ヲ以テ次項トモ改正
(三十三)

但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ
法律第三十四號
ヲ以テ條中改正
(三十三)

前項準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セントスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換
銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ發行額ハ
前項準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス
(三十二年法律第二十四號)
號ヲ以テ本項中改正

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行
ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ
(三十二年法律
第三十四號ヲ以
テ本項中改正)

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ノ手形ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコト
ヲ得
(三十二年法律第三十
四號ヲ以テ條中改正)

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ
外不動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取副頭取各一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其
ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得
理事ハ五十株以上所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命
シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其

ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

理事及監査役ハ選舉ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ハラズ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得

第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ臺灣銀行ノ業務ヲ監査ス

第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スルコトヲ得

監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ頭取ニ請

求スルコトヲ得此場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ法律上ノ

代理人ハ此ノ限ニアラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、簿帳及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及

景況ヲ報告セシムルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハ

ルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當

ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ銀行券發行高貸付金額及方法ヲ制限スル

コトヲ得(三十二年法律第三十號ヲ以テ本條中改正)

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認

ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘ

シ

臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘ

シ(三十二年法律第三十四號ヲ以テ本條中改正)

第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百

圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料

ニ處スルコト亦同シ(三十二年法律第三十四號ヲ以テ第二號中改正)

一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ

三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テタルトキ

附則

- 第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
- 第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス
- 第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ
- 第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ
- 第三十一條 設立初度ノ理事及監査役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

○臺灣銀行補助法 明治三十二年三月
法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行補助法

- 第一條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ臺灣銀行ノ株式ヲ受クヘシ
- 第二條 臺灣銀行ハ其ノ創立初期ヨリ五箇年間ハ前條ノ株式ニ對シ配當スヘキ利益金ヲ缺損補填準備金ニ組入ルヘシ
- 第三條 前條ノ期限内政府ハ其ノ引受ケタル株式ヲ賣却セス

○銀行條例貯蓄銀行條例及「銀行合併法」ヲ臺灣ニ施行 明治三十一年九月
勅令第二百五號

朕銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年法律第七十二號銀行條例同年法律第七十三號貯蓄銀行條例明治二十九年法律第八十五號銀行合併法ヲ臺灣ニ施行ス

三十三年
法律第六
號ヲ以テ
銀行合併
法廢止

○取引所法 明治二十六年三
月法律第五號

沿革略記 明治七年十月第百七號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ制定ス○全年十二月第百三十八號布告ヲ以テ從來各地方ノ米油限月賣買ヲ差止メ自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引ヲ爲サントスルモノハ是歲十月第七號布告ノ方法ニ倣ヒ會社規則取調其管轄應ヲ經テ大藏省ヘ出願許可ヲ得ヘキモノトス○九年八月第百五號布告ヲ以テ米商會所條例ヲ制定ス○十一年五月第八號布告ヲ以テ七年第百七號布告ヲ廢シ更ニ株式取引所條例ヲ制定ス○二十年五月勅令第十一號ヲ以テ取引所條例ヲ制定ス○二十六年三月法律第五號ヲ以テ株式取引所條例米商會所條例及ヒ取引所條例ヲ廢止シ更ニ取引所法ヲ制定ス
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章 取引所ノ設立

- 第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得
- 第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

銀行條例貯蓄銀行條例及「銀行合併法」ヲ臺灣ニ施行 取引所法

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ
第二章 取引所ノ組織
第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其取引所ハ仲買人及會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得
株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其取引所ノ仲買人ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得
取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得
取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規定ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ス

(三十二年法律第五十八號ヲ以テ會員ノ下株主ノ二字ヲ

除) 婦女、未成年者、公權剝奪及停止申ノ者、復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ關スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス
仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトチ間ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以內ノ過意金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以內ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ

政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上
 監査役 若干人
 理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ
 第十一條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス
 第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引、延取引及定期取引ノ三種トス
 第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得
 第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得
 第二十二條 株式會社組織ハ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得
 第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス
 第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行為法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 取引所ノ解散
 二 取引所ノ停止
 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止
 四 役員ノ解職
 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名
 第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ
 第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得
 第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ
 第七節 罰則
 第三十一條 第十二條第一項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則